

資料 1

第3次松戸市地域福祉計画に関連する 地域団体の取り組みの把握結果

令和2年1月
松戸市

目次

第1章 調査の概要	- 1 -
1 目的・方法・回収結果・留意事項	- 2 -
第2章 調査結果の考察	- 3 -
第3章 調査結果	- 8 -
1 ボランティア活動の有無	- 9 -
2 ボランティア活動をしていない場合の理由	- 9 -
3 ボランティア活動をしていない場合、その必要について	- 9 -
4 ボランティア活動をしていない場合、行政に期待する役割について	- 10 -
5 取り組んでいる分野	- 12 -
6 対象者	- 22 -
7 開催数	- 23 -
8 利用者(会員)数	- 24 -
9 従事者数	- 25 -
10 活動経費(町会・自治会のみ)	- 26 -
11 財源(収入源)(町会・自治会のみ)	- 27 -
12 活動メリット	- 28 -
13 活動当初と比較して変化したこと	- 36 -
14 周知方法	- 42 -
15 問題点	- 43 -
16 取り組む上で必要と感ずること	- 44 -
17 ボランティア活動をしている団体が行政に期待する支援や役割	- 45 -
18 今後の方向性	- 53 -
19 今後の取り組み内容	- 54 -
20 次期地域福祉計画に反映すべき事項	- 58 -
21 地域福祉についての意見	- 65 -
第4章 アンケート調査票	- 71 -

第1章 調査の概要

1 目 的

地域福祉を推進していくためには、地域住民や事業者など様々な主体が行政と協働し、お互いの情報を提供し合い連携して取り組むことが不可欠となっている。

今回、その重要な担い手である、町会・自治会、民生委員児童委員、ボランティア、NPO、各種団体等が地域でどのような活動を行い、課題が生じているのか等を把握することにより、次期計画策定の参考資料とすることを目的とする。

2 方 法

(1)対 象：松戸市で活動する民間企業、複合サービス（郵便局・協同組合）、福祉関係機関、市民活動登録団体、地域団体、町会・自治会

(2)期 間：令和元年6月～11月

(3)方 法：郵送・FAX・メールによる配布・回収

※ なお、松戸市ホームページにおいてもアンケート調査票を掲載した。

3 回収結果

No	種別	配布数	回収数	回収率(%)
1	民間企業	6	5	83.3
2	複合サービス	50	41	82.0
3	福祉関係機関	106	57	53.8
4	市民活動登録団体	97	27	27.8
5	地域団体	50	42	84.0
6	町会・自治会	346	276	79.8
	計	655	448	68.4

※ 平成27年度（前回）回収率：51.7%

※ 前回比16.7%回収率が向上

4 留意事項

本アンケートの集計結果は、回答者の記入・未記入に左右されることから、各項目の回答数は回収数に必ずしも一致しない。また、複数回答を求めた設問では、回答比率の合計が100%を超えることがある。

第2章 調査結果の考察

1 ボランティア活動の有無等

(1) ボランティア活動の有無 (p 9)

平成 27 年度と比べ、ボランティア活動の取り組み数が 15.2%増加し、全体で 61.2%の団体から活動を行っている旨の回答があった。

ただし、前回に比して回収率が 16.7%向上していることも少なからず影響している可能性があることから、引き続き、ボランティア活動の推進に努める必要がある。

(2) ボランティア活動をしていない場合の理由 (p 9)

「活動に取り組む人手がない」が約 65%となっており、従事者が高齢化していることや後継者不足が背景にあるものと思われる。

(3) ボランティア活動をしていない場合、その必要性について (p 9)

現在ボランティア活動をしていない約 68%の団体がその必要性を感じているものの、人手不足などにより活動に踏み切れていないことがわかった。

(4) ボランティア活動をしていない場合、行政に期待する役割について (p 10)

行政に期待する役割として大きく分けると、①人手不足を解消するため、若手世代を活動に取り込むなど担い手の育成 ②取り組むきっかけとなる情報の発信・活動要領の周知啓発 ③活動資金を確保するための行政からの補助 ④活動拠点となる場所(公園・広場等)の増設などの意見があった。

今後さらにボランティア活動を促進していくためには、活動資源となる人・場所・資金の確保により活動環境を整備し、引き続き周知啓発を行っていくことが重要であると考えられる。

2 取り組んでいる分野

(1) 集計結果 (p 12)

前回と同様、「声かけ・見守り(30.3%)」、「防災(23.4%)・防犯(27.9%)」に関する分野が多く取り組まれていることがわかった。特に、民間企業、複合サービス、地域団体、町会・自治会がこれらの分野で多く活動しており、比較的取り組みやすい分野であると思われる。

(2) 取り組みの内容 (p 13)

先ほどの3分野に加え、体操やレクリエーションを目的とした「健康・医療」、子どもと保護者の交流を図る「子育て支援」についても多く回答が寄せられている。

3 対象者 (p 22)

ボランティア活動の対象者としては、前回同様、高齢者(45.5%)や子ども(32.4%)などに関する取り組みが多かった。

4 開催数（p 23）

年間の活動数としても前回同様、1～9回が25.2%、10～19回が15.4%と多く、月1回前後の回数がほとんどであった。

5 利用者（会員）数（p 24）

前回に比べ、100人～199人(6.7%)、1,000人～(6.0%)の順に利用者（会員）数が多く、よりボランティア活動の規模が大きくなっていることがわかる。特に、「町会・自治会」、「市民活動登録団体」、「地域団体」においてこの傾向がみられる。

6 従事者数（p 25）

1～9名(14.7%)、10～19名(7.1%)が多く、団体別にみても30名以下で活動している状況である。今回調査では、特に1～9名(14.7%)が突出して多い状況であり、従事者不足を裏付けるものとなっている。

7 活動経費（町会・自治会のみ）（p 26）

前回同様、年間でボランティア活動に投じている資金としては、10万円未満としている団体がほとんどとなった。

8 財源（収入源）（町会・自治会のみ）（p 27）

前回同様、「会費(26.6%)」が最も多く、次いで「行政からの補助金(11.0%)」となっている。

9 活動メリット（p 28）

活動により、分野ごとの取り組みの目標を達成していることはもちろんのこと、各分野に共通するメリットとして、①地域での交流を深められ、信頼関係の構築に役立っている ②参加者のみならず支援者も様々な情報に触れられ、自身の向上につながっている ③安否確認・相談の場となっているなどが挙げられていた。

このことから、分野を問わずボランティア活動などを行うことで地域内での交流を深められ、そのことが参加者同士の助け合い、従事者の資質向上につながっているものと思われる。

10 活動当初と比較して変化したこと（p 36）

「9 活動メリット」と重複する部分もあるが、一方で、「ボランティアの高齢化、従事者不足」、「参加者が固定化している」など、経年変化により活動が困難になっている状況、または顔ぶれが変わらないなどという問題点も見受けられる。

11 周知方法（p 42）

前回同様、「町会・自治会の回覧版(37.3%)」、「声かけ(29.7%)」が多く、「ホームページ(7.6%)」については最も低く、活用されていないことがわかった。

今後の課題として、若手を取り込んでいく必要性があることから、ホームページなどのメディアの活用も必要であると思われる。

12 問題点（p 43）

ボランティア活動上の問題点として、「従事者の高齢化が進んでいる(36.4%)」、「従事者が不足している(21.7%)」が前回同様、上位に挙げられている。

13 取り組む上で必要と感ずること（p 44）

組織づくり（従事者の確保等）(38.8%)、広報活動(21.4%)が前回同様、上位に挙げられている。

14 ボランティア活動をしている団体が行政に期待する支援や役割（p 45）

各団体の共通事項として①団体の活動内容を周知するための広報活動 ②活動を維持・継続するための補助金の充実 ③活動の場となる拠点の確保 ④具体的な活動レベルでの行政と市民の協働が挙げられている。

15 今後の方向性（p 53）

維持(50.0%)、拡大(13.4%)の順となっており、ほとんどの団体は引き続き活動を継続していくことがわかった。

16 今後の取り組み内容（p 54）

各団体とも、活動内容の充実や回数の増加を目指す記述がみられるが、一方で「従事者不足」「多忙により活動の充実は困難」「現状を維持する」といった内容もあった。

17 次期地域福祉計画に反映すべき事項（p 58）

各団体とも共通して挙げられているのが、①ボランティア活動の従事者確保 ②集会所等の活動拠点の整備 ③活動費の助成、補助などとなっている。

18 地域福祉についての意見（p 65）

これまでに出示された問題点などのほか、災害時における要支援者の避難誘導體制の強化や防災に詳しい人材育成の必要性などに関する意見がみられた。

地震や風水害など災害が頻発する中で、有事に備えて日ごろから要支援者を交えた実践的な訓練やマニュアルの作成などが求められている。

19 総 括

ボランティア活動を行っている団体、行っていない団体のいずれも、高齢化による従事者・後継者不足や活動資金・活動場所・周知啓発活動の不足等を問題視しており、それらに対する行政からの支援を必要としている状況であることがわかった。

一方で、今後の地域福祉計画は、地域共生社会の実現を目指した地域福祉の推進計画との基本的な考え方を基に取り組みを進めることが求められており、その第一歩として地域住民や多様な主体が「我が事」として参画していく必要がある。

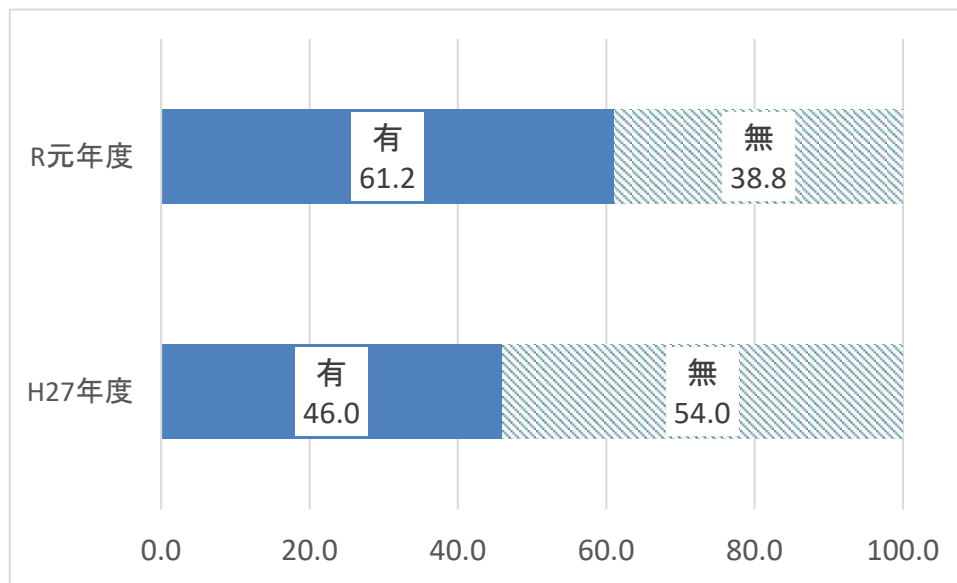
今後は、従来どおり高齢者を主体としたボランティア活動を推進していくのではなく、そのような活動に若年層を含めた現役世代を取り込み、地域福祉の担い手の育成と地域づくりを進めていくこと、さらに活動資金や活動場所の確保といった基盤整備が重要になるものと思われる。

本調査結果とこれからの地域福祉計画が果たすべき役割を踏まえ、次期地域福祉計画の策定へとつなげていきたい。

第3章 調査結果

1 ボランティア活動の有無

回答数：448



(%)

2 ボランティア活動をしていない場合の理由

理由	回答数	割合
活動に取り組む人手がない	108	65.5%
きっかけがない	28	17.0%
他の事業者等との関連が弱い	10	6.1%
その他	19	11.5%
	165	100%

3 ボランティア活動をしていない場合、その必要について

項目	回答数	割合
感じている	118	68.2%
感じていない	17	9.8%
どちらともいえない	31	17.9%
その他	7	4.0%
	173	100%

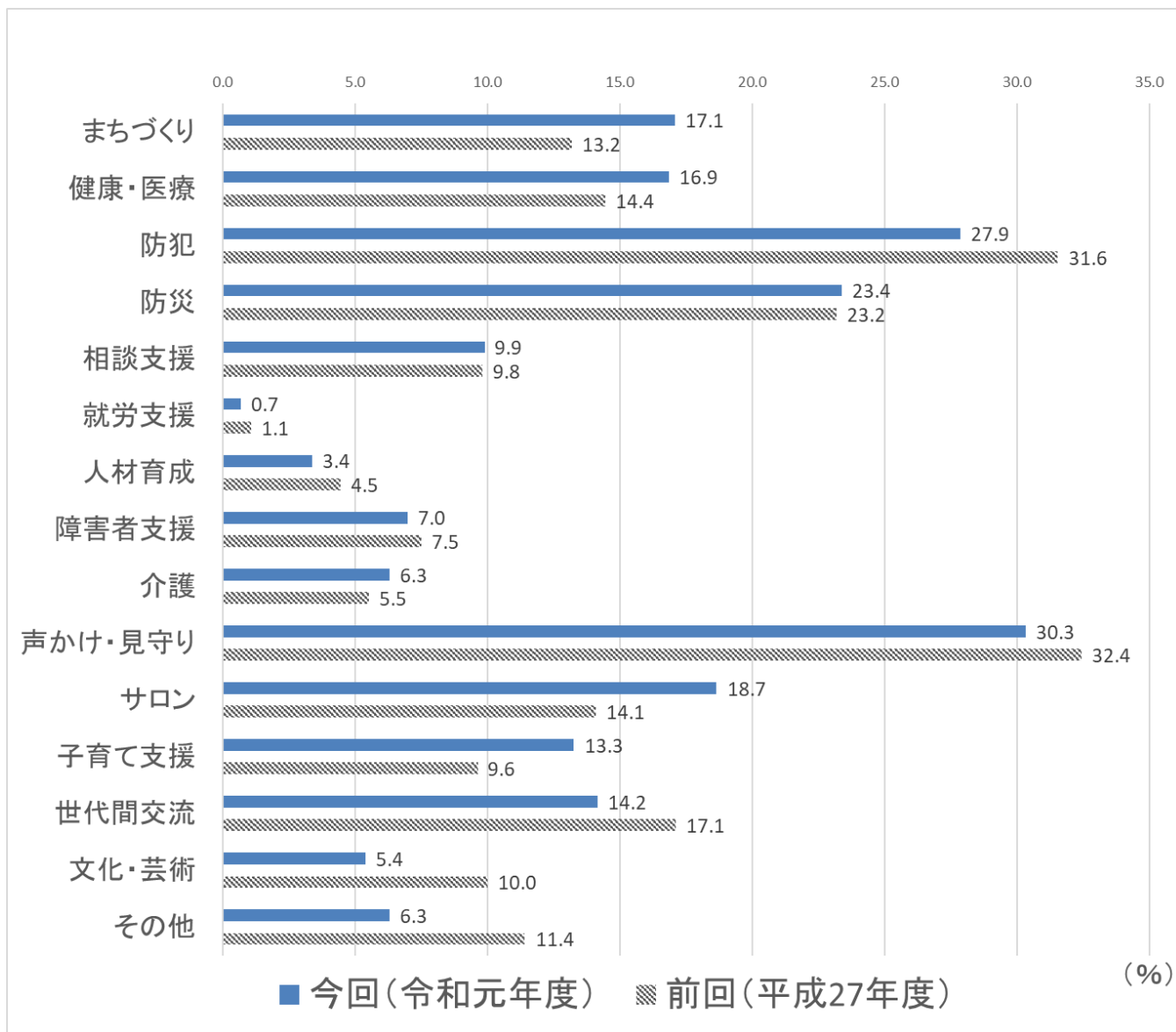
4 ボランティア活動をしていない場合、行政に期待する役割について（自由記載欄）

活動を周知して欲しい
企業や団体に適した案内をする
来店される高齢者などの見守り等はできる限り行っていきます
オレンジリング(見守り)は何人が持っています。 生協の配送をしていますので、ゆるーい見守り活動としてはやっています。
現在の当会の目的は街路灯維持が主です。会の維持がボランティアにつながっていると考えます。
松戸市で勤務する前はボランティア活動をしていました。(ボランティアコーディネーターがおりました) 現在の職場でボランティアをする難しさを感じています。国の基準で園児を保育することで精一杯の職員を見ているので…。私自身は、休日にボランティアをしています。
ボランティアの募集や福祉活動を積極的に知らせて欲しい。仕事をしながらも活動できる様なボランティアの紹介や参加のためのノウハウの紹介ももっとあると参加しやすくなるのでは…参加したい気持ちはあるが勇気がない、または、わからないという人も多いと思う。
機会やきっかけ等紹介してほしい
ボランティアをする団体と連携する必要性は感じている。高齢者支援連絡会への協力など
1.子供のころからの教育 2.ボランティアを支える方の育成
有償ボランティアをもっと推進してほしい
スタッフの増員
自治会は高齢のためこれ以上の福祉活動は無理
防犯や救護に関する資格制度があれば募集や参加しやすくなると思う
各自治会町会に対して行政として積極的に声を掛ける
地域とのコミュニケーションを図る上で個人情報の秘密の壁があり、家族構成等の把握が難しい
取り組みやすい情報の発信
若い世帯を取り組むしくみが必要
公園等に拠点となる場所及び施設が欲しい
ボランティア活動に取り組む人手が足りないので困っている
どのような活動があるのか紹介してほしい
どのような活動をしたらよいかわからない。活動資金がたりないので、その点に対するフォローをお願いしたい
町会としては活動していないが、防犯パトロールや高齢者向けサロンなど、会員が個人として活動している。なるべく行政からの補助があると助かる
町会員の高齢化が進んでいてボランティア活動までは対応できない。担い手の育成をおねがいしたい
どのような活動したらよいかわからない。またやるにしても資金的な援助が必要
活動要領やガイドがあれば入手したい
行政からの補助が必要

地域の社協と自治会(会長)との連携や自治会内への働きかけなど継続させる方法を教えて欲しい(会長など2年くらいで交代してしまう)
活性化していく手立てが良く分からない。市でご指導してもらえれば参加したい
待ってるだけでなく、行政からもっと引っ張ってほしい
現状では自治会活動の中に位置づけて取り組むのは難しい。 防犯協会、社協などの構成員の拡充に力を注ぎ、それらの団体を中心に活性化を図ってほしい
防犯で人手が足りない。シルバーでは動員できないか
社協や同好会など、活発に活動しているので必要性を感じていない。 ボランティア活動に興味を持っている人の人材発掘と育成の講座の開催と周知
取り組みが強制にならないように、十分な配慮を望む。
どんなボランティアがあるか、情報発信すること
参加役員が高齢化している。役員としての参画意欲がない
いろんな情報を今まで通り発信してもらい、いろんなルートで個人と発信が近くなれるようにしてもらいたい。 一方多くの人の「自助の努力」部分が増加している。(いざという時以外はあまり中に立ち入れられるのを嫌われる)
高齢者が多い為、巡回指導があると幸い
当自治会役員は輪番制で選出された役員であり、定職についている関係で平日におけるボランティアには参加できない状況。一方、休日のボランティアは参加できる方もいる
高齢者や仕事を持っている人の広報
町会内にある小学校の見守り活動が人手不足で参加できず他町会任せになっている。 地元の高齢者等の協力をえて、見守り活動を始める動機づけ等の事例があったら教えて欲しい
予見能力を高めること。 住民の要求への対応策を準備する能力をつけること
他の団体の活動状況を知り、自分達の活動に取り入れたいと思う。 その情報収集と発信をお願いします。
地域の特性 (年齢構成の変化、就労構造の変化)等を考えず、従来の発想では活性化しない このアンケートの「ボランティア」とは何のことか。設問の意味が不明
現場実態をよく考えて行政活動を計画して欲しい。
公園や広場が少ないため、コミュニケーションを図る場が少ない。 そういった場を増やすことがボランティア活動にもつながると考える。
若い世代を取り込んでいく仕組みをお願いしたい。
恐らく町民は必要性を感じているが、高齢化が進み積極的に従事する人が少ない。市の広報活動によりボランティア、福祉活動の啓蒙をしてもらいたい
資金への支援とボランティアの養成講座。タウンミーティング

5 取り組んでいる分野(複数回答)

回答数：448



◆団体種別 (取り組み数)

	民間企業		複合サービス		福祉関係機関		市民活動登録団体		地域団体		町会・自治会		計	
	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27
計	6	8	35	18	79	70	83	133	155	185	534	738	892	1152
1 まちづくり	0	1	8	0	5	3	14	15	7	15	42	40	76	74
2 健康・医療	0	0	3	0	8	11	6	8	18	19	40	43	75	81
3 防犯	1	2	5	3	2	0	0	1	9	5	107	166	124	177
4 防災	1	0	1	2	3	2	2	3	8	5	89	118	104	130
5 相談支援	1	1	2	0	7	8	9	9	10	14	15	23	44	55
6 就労支援	0	0	0	0	1	1	0	4	1	1	1	0	3	6
7 人材育成	0	0	0	0	4	2	6	5	1	11	4	7	15	25
8 障害者支援	0	0	1	0	1	1	6	8	15	21	8	12	31	42
9 介護	0	0	1	0	4	5	4	5	6	10	13	11	28	31
10 声かけ・見守り	1	2	2	4	7	4	6	10	32	24	87	138	135	182
11 サロン	0	0	2	1	10	5	8	4	16	23	47	46	83	79
12 子育て支援	0	0	4	2	13	14	7	12	17	9	18	17	59	54
13 世代間交流	0	1	3	3	7	8	7	15	5	8	41	61	63	96
14 文化・芸術	0	1	1	1	1	2	3	16	3	6	16	30	24	56
15 その他	2	0	2	2	6	4	5	18	7	14	6	26	28	64

※塗りつぶしは、各列上位3位以内

◆取り組みの内容(抜粋)・・・以下、原文のままの掲載となります。

《まちづくり》

フリーマーケット、飲食店を設置し、来場者に楽しんでもらう
祭りの準備の手伝い等
夏祭りにおける協賛金及び参加して地域貢献
春のおまつりのお手伝い
八柱さくらまつり等
1. 松戸市の名所旧跡等の日本文化に関する研修及び調査活動 2. 外国人への名所旧跡及び日本文化体験等の紹介並びにガイド活動 3. 松戸市在住外国人への日本語を含む多言語による生活ガイド
まちづくり…東松戸駅前道路両側の植樹帯への花づくり
子ども達と町会はなみずき通り街路に花植え
花の持つ優しさで心に潤いをもたらすよう 皆で楽しみながら植栽作業をする 花植えを通し、住民相互のコミュニケーションを図り、明るい街を築いていく
電線の地中化、 県、知事への働きかけ市との協力と共に共同溝の作成、電柱の撤去防災面でも有効

《健康・医療》

献血呼びかけ
健康体操 ストレッチ体操、頭の体操を楽しみながらおこなっている。
年2回 21世紀の森と広場を散策するイベントを実施
病気の理解・対応方法の学習会、相互の体験交流と支えあい 孤立している当事者・家族との接点作り、相談、支援事業 心の病について、公開講演会の開催など市民向けの啓発活動 地域活動支援センターⅢ型の運営2箇所
障害者や高齢者を対象に「笑いヨガ」(体を使って体操をする)や「落語」(笑うことによる健康)会を開催しています。 専門家を呼んで、「障害者や高齢者を対象として健康のための生活上の注意」のお話会を開きます
松戸市の健康推進員をさせていただいているので職場においても健康づくりに役立つ情報等お知らせしている
地域に開いているコミュニティカフェの場を定期的に借り、参加者向けに健康講座や相談支援を行う。メンバー一同看護師、ケアマネジャー、理学療法士、作業療法士、医療介護の専門職。 また喫茶をしながら会話の中で、保健、病気、介護へのニーズを引き出し押し付けない支援を重要視しています
体操・麻雀・折り紙・書道

<p>開催：月1回第2火曜日 13時30分～15時まで開催</p> <p>参加：約30人 認知症当事者、介護されているご家族、地域住民の方であればどなたでも</p> <p>内容：勉強会、団らん、体操等</p> <p>運営：地域ボランティア及び六高台福祉会職員</p>
<p>スポーツ吹き矢（1/W）明尽苑内地域交流スペース</p> <p>健康麻雀・おしゃべりクラブ・書道クラブ（市民対象サロン）</p> <p>健康予防体操教室（2/M）</p>
<p>管理栄養士、看護師、機能訓練指導員、介護福祉士などの職員をご希望に合わせた講義内容に合わせて派遣しています（無料）。月1回 認知症カフェを開催しています。</p>
<p>月に二回、体操やレクリエーションを行うすずらんくらぶを地域の方を対象に行っている</p>
<p>65歳以上の高齢者を対象に四半期に1回集合し、軽運動、お話し、マジック見学等 2時間程度楽しむ集い</p>
<p>毎月第三土曜日に高齢者たちと健康体操</p> <p>毎月第三日曜日に高齢者たちと防犯を兼ねて地域ウォーキング</p>
<p>えん下カアップの体操、</p> <p>軽い体操（脳トレも含む）を行う。その後お茶を飲みながらおしゃべりタイム。これが楽しく大事。</p>
<p>健康体操、クイズ、歌などをみんなで行う</p> <p>13:30～15:30まで</p> <p>集会室において実施している</p>
<p>健康に関する具体的な講演会</p>

《防犯》

<p>松戸まつりにおいて防災・防犯・ガス事故防止に関するパンフレットを配布し、防災に関するアンケートをもらっている。また、相談窓口を作り、特にガス器具による“うっかりミス”を少なくするように努めている</p>
<p>小中高校夏休みに入ると週1回5時30分のチャイムが鳴ると2班（6～8名）に分かれて公園8箇所巡回し、帰宅していない子どもに声かけをしている</p>
<p>異変がある方を発見した際に通報等を行う。車両に「防犯パトロール実施中」のマグネットシートを貼付し活動。</p>
<p>子ども110の看板設置</p>
<p>年末シーズンに自治会で開催している防犯パトロールに参加して、地域の方々とエリア内のパトロールを実施している</p>
<p>デイサービス車両にステッカーを貼り、送迎中に担当職員が見守り活動を行う</p>
<p>毎月曜から金曜 20時から1時間の町内パトロール</p> <p>学童の登下校時の見守り活動（毎月・金の午前と午後）</p>
<p>警防団員による町会パトロール月10回</p>

小、中学生児童の通学声掛け見守り
青色回転自動車にパトロール、徒歩パトロール
毎月第三日曜日に高齢者たちと防犯を兼ねて地域ウォーキング
月二回土曜日に町会エリアを2組で夕方7:00~8:00頃までパトロール
毎月15日(土・日・祭日の場合は金曜日)に町内を巡回してパトロールを行う
矢切小児童一年生の下校時の安全パトロール
児童の登下校の見守り地域の見守りパトロール
児童の登下校の見守り、町内会の見廻りによる防犯活動、防災訓練等を実施している
会長の自家用車で青パト車の許可を取り、毎週時間回数を決めて運行。 徒歩パトロールもあり
20時より町内会一周パトロール
高齢者と福祉関係者を含む町会役員の交流会
歳末警戒パトロール12/25~30日
八柱周辺 防犯パトロール、客引き禁止パトロール(町会、商店街合同パトロール)
防犯パトロール:年間を通して有志による実施、班長・役員が夏・歳末計15日実施
町内防犯、防災パトロール月1,2回は町内を巡回する 高齢者の所へ月1必ず声がけ訪問する
朝の登校時のパトロール
地域内の防犯パトロール月1回 高齢者の声掛け見守り、子どもたちへの安心安全見守り
週2日の地域内の見廻り。2か月に1度の地区内の各種役員との情報交換
学童低学年の下校時の時間に合わせて青パトにて通学路中心にパトロール 1,10,20日に小金地区全域を青パトにてパトロール
防災訓練、防犯パトロール
①毎週1回 木曜日夜にパトロール ②年1回 地域合同で防災訓練 ③小学校の開校期間内 毎日交差点で見守り
毎週火曜日午後8時からマンション敷地内のパトロールを行う。
防犯 月1回20時から1時間、拡声器を持ち自転車で巡回 年末25日~30日まで役員と班長で徒歩巡回 月2回第2,4金。特に独居宅を有志で巡回 毎日登下校時の見守り

《防災》

災害時に避難所となり得る学校で避難所開設訓練や防災訓練を学校、地域、行政と共に行い、訓練だけではなく災害時にリーダーとなる人材育成も行う
青色回転自動車にパトロール、徒歩パトロール 独居老人の朝・夕見守り、障害者サロン。子ども会全面支援(費用全額町会負担)

春と秋に実施して、大地震が発生したという想定で避難訓練している
災害時要支援者活動は安否活動など避難所設営
防災公園にて町会防災訓練実施
近隣町会と連携した防災訓練を実施
防災訓練：避難訓練、消火、心肺蘇生、搬送訓練など 10 月中旬
防災は年 1 回の種々の訓練と要支援者の募りとアンケートの防災意識。
防災指導員として、学校（小、中）を中心に各所、交差点、信号が無い所に人員を配置して生徒の安全誘導作業している。防災リーダーとして秋の訓練に向けて計画、立案のため、意見交換して訓練の実施要項を作成して訓練を実施する（11 月中旬）
六実二小の近隣 5 町会において、地震等発生した場合の避難訓練及び避難所運営等について訓練している。
防災…自治組織の運営、毎年防災訓練の実施

《相談支援》

①制度の普及啓発のための講演会、講習会、勉強会
②具体的な個別案件の無料相談会
③法定後見、任意後見の具体的な受任
毎年 2 回、3 月と 9 月に勤労会館において成年後見、消費者被害エンディングノートの作成について無料相談会を開催しています。
おしゃべり広場・訪問相談・公開相談会・地域交流会・認知症講座・地域パートナー養成講座・福祉フォーラム・地域フォーラム
「遺言・相続セミナー（無料）」を原則 1 回/月、勤労会館会議室で開催しています。
地域に開いているコミュニティカフェの場を定期的に借り、参加者向けに健康講座や相談支援を行う。メンバー同看護師、ケアマネジャー、理学療法士、作業療法士、医療介護の専門職。 また喫茶をしながら会話の中で、保健、病気、介護へのニーズを引き出し押し付けない支援を重要視しています
保育園で近隣の未就学児を対象に親子で参加してもらい、室内や園庭で遊んだり、製作物を作ったり、心理士を交え育児相談を行っている

《障害者支援》

障害者の食事会（10 時～12 時）
手書きによる拡大写本を定期的に弱視学級のある小中学校に贈呈
市内の障害者等の 16 団体にて勉強会及び視察研修会等
会員の特別支援学校卒業後の進路先となりうる施設との連携をとりつつ、施設見学を企画し、会員の視野拡大につなげる
障害者や高齢者を対象に「笑いヨガ」（体を使って体操をする）や「落語」（笑うことによる健康）会を開催しています。

<p>専門家を呼んで、「障害者や高齢者を対象として健康のための生活上の注意」のお話を開きます</p>
<p>福祉施設訪問ピアノ伴奏で利用者さん達に歌ってもらい元気を届ける</p>

《介護》

<p>介護施設の入所さんへお茶を立てて差し上げたり、フラダンスグループをお呼びしたりして楽しんでもらう</p>
<p>高齢者に役立つ各種講演会(公開講座)を開催(H30年度実績) 7月「介護保険制度について」9月「シニアを元気にする秋の演奏会」11月「高齢者住宅について」1月「健康寿命をのばそう」</p>
<p>65歳以上の高齢者を対象とした、情報提供の場。情報提供により、安心して地域で暮らせるように促進している。 毎回、認知予防体操、講話、茶話会談笑。よろず相談の場所を提供しています。</p>
<p>22年以上続けている有償ボランティア活動。家事支援、介助移動、基本的な介助、「悠々」居場所作りなど</p>
<p>介護支援ボランティア:体操教室の準備から片付け、運営 オレンジ協力員:・認知症に関するイベントを行うときはオレンジ協力員に受付や会場準備などからイベントの中での劇なども実施してもらっている 認知症カフェ:会計含む運営全般 高齢者支援連絡員:高齢者見守り、健康教室開催 他:自主運営サークルの活動支援など</p>
<p>「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」を目標に掲げ、マラソンイベントを中心とした啓発活動です</p>

《声かけ・見守り》

<p>①年2回近隣、及び加盟店の周辺清掃を30分ほど実施 ②お食事お届けサービスを通じて高齢者の見守り活動</p>
<p>友愛訪問 75歳以上独居の方対象に友愛訪問担当ボランティアが安否確認をかねて訪問している。健康体操 ストレッチ体操、頭の体操を楽しみながらおこなっている。</p>
<p>独居高齢者、高齢世帯で気になる家の見回り 高齢者の相談に応じる ・関係機関への相談・紹介 ・安心電話の紹介</p>
<p>ほっとサロンを各地域において開催 各地域で高齢者の見守り・声かけをする</p>
<p>高齢者が安心して暮らせるように、地域で見守り活動をおこなう。 高齢者を訪問・声かけし、必要に応じて民生委員や包括支援センター等につなぐ、毎月1回程度、定例会(検討会やスキルアップ)を開催</p>

町会単位で行われるサロン、民生委員と行う地区社協主催の独居高齢者宅へのお弁当配達（月2回）のお手伝いをし、独居高齢者の見守りを行う
高齢者への声かけ⇒いつもと違った様子がみられたり、地域の方からの情報が入ったりしたら、民生委員、地域包括支援センター等の関係機関につなげる。サロンや行事へ参加し、顔見知りになり、困りごとなどの相談役になる
敬老の日を中心に 80 歳以上の独居の方を訪問し、ささやかなプレゼントを差し上げる
毎月2回、手作りのお弁当を夕食として届けています。代金は200円です。70食くらい作っている
民生委員として主に独居高齢者の見守り、相談に応じて対応する機関に連絡など
独居高齢者・高齢者夫婦世帯の見守り、障害者の見守り、子育て母子家庭の相談援助、子どもの見守り
小中高校夏休みに入ると週1回5時30分のチャイムが鳴ると 2 班(6～8 名)に分かれて公園 8 箇所巡回し、帰宅していない子どもに声かけをしている
年に1回、民生委員全員で担当の独居高齢者宅へ絵手紙を作成し送る
地域の高齢者対策としての見守り等を兼ねて月 1 回のふれあい会食会を実施運営
36 名の委員で構成、6班編成で毎月1～2回、班全体で声掛け・見守り(特に独居高齢者を中心に)
毎月曜から金曜 20 時から 1 時間の町内パトロール 学童の登下校時の見守り活動(毎月・金の午前と午後)
毎土曜日 20～10 人ぐらいの町会内の人と防犯パトロール 高齢者で独居の方を対象にした見守り声掛けシステムをつくり年 2 回。 町内担当者と戸別訪問し関わりを作る。さらに年 1 回。食事会に誘い地域交流を促す
小学生の安全のために角立ちで子供達を安全に帰れるように見守っている
毎月 2 回の全戸 見守り声かけ、巡回パトロール 毎月 2 度の買い物ツアー実施
会長の自家用車で青パト車の許可を取り、毎週時間回数を決めて運行。徒歩パトロールもあり
週 1 回電話による見守り
月2、3 回のパトロール(防災指導員、役員会員)、子供達の登下校時の見守りと声かけ 高齢者への声かけと見守り
登下校時の見守り、高齢者世帯の見守り
地域内の防犯パトロール月 1 回、高齢者の声掛け見守り、子どもたちへの安心安全見守り
高齢者の見守り活動については町会より高齢者(70 歳以上)の健康状況を日常の町会員とのコミュニケーションにより情報を得、個人別に一覧表にして民生委員、高齢者支援・連絡委員に提供し見守り活動に活用してもらっている
小金小の児童の登下校や放課後の交通安全や防犯対策のために見守り活動を行う
小学生の下校時の道路交差点等で旗を持つての見守り
小学生の下校時に通学路の交差点にて児童の交通安全に寄与
一人暮らしの高齢者の見守り(ゴミ出し、声掛け、話し相手)

月 1 回くらい高齢者(一人暮らし)に声掛けしている
児童の登校時の見守り活動。月～金 毎日AM7:00～8:15
月 2 回第 2、4 金。特に独居宅を有志で巡回 毎日登下校時の見守り

《サロン》

ほっとサロンを各地域において開催
町会単位で行われるサロン、民生委員と行う地区社協主催の独居高齢者宅へのお弁当配達 (月 2 回)のお手伝いをし、独居高齢者の見守りを行う
65 歳以上の方を対象に誰でも気軽に参加できるおしゃべりサロン
70 歳以上のおひとり暮らしの方を対象にする会食会
子育て中の親子(おおむね 3 歳くらいまで)の交流の場
地区 6 箇所の自治会館等で 80 歳以上の独居及びご夫婦のみの世帯と 1 年に 1 度交流の場 を設けている
65 歳以上のおひとりぐらしのサロン毎年アマチュアのアーティストを呼んで催し物を楽 しんでいる。運営を民児協だけで行っている
65 歳以上の高齢者の談話室、保健師の話、映画季節ごとのお祭りにちなんだイベント 民生委員による高齢者の福祉相談
高齢者を対象にサロン開催 年 6 回
月 1 回 1 月と 8 月を除いた年 10 回 個人宅で 13:00～16:00 お菓子とお茶でおしゃべりする
ふれあいサロン…高齢者を中心に月 1 回集まり、セミナー、ゲーム交流等を行い高齢者の 支援する
おしゃべりサロン… 毎月第 4 金曜日午前 10 時～12 時 季節に応じた(七夕、月見、ひな祭り等)又電話サギ 予防の講演会、高齢者の事故防止等の講演を実施

《子育て支援》

おもちゃの修理を通して子どもたちに物を大切にする心が育ち、また、介護施設、障害者 にもみんなで見守っていると感じていただけたらとの気持ちで会員一同頑張っております。
子育て中の親子(おおむね 3 歳くらいまで)の交流の場
年に 1 度センターを貸切り、おまつりをする。小、中高生の演目、ゲーム、ビンゴ、カフ ェ、野菜、花売り、駄菓子、ポップコーン等
演芸、民生委員としてブースを出している。豚汁 1000 食分作っている(民生) フリーマーケット、保護司会、点訳、おもちゃの病院などいろいろ
乳幼児とその保護者に交流・遊び場を提供する
新松戸祭りでミニ S L の運営。切符販売⇒乗車⇒降車までの対応

0歳～未就学児の幼児と保護者の交流の場。手遊び、ダンス、保健師、保育士の話
年間、原則毎月第1水曜日10:00～11:00
明市民センター2F和室を利用し、地域の子育て家庭（未就園児）の交流の場として開催
子ども達と簡単なおもちゃ作り
地域のお子様無料で遊べるイベント、ゲームを提供 おもちゃの無料修理や子育て相談等も開催
各地域の民生委員の方が主催しているサロンに子育てコーディネーター出向き、親子との交流に参加している
子どもと高齢者の居場所活動、地域の大人と子どもの交流を図るイベント
毎週火曜日にプレママ&未就園児親子を対象に古民家の和室を開放している第一火曜日にはアロマトリートメントサービスをボランティアの方に行ってもらっています。
聖徳大学保育科の学生と共に、中央公園で造形活動を行う。 事前に保育園にてワークショップを行い、学生と子どもが交流する。
子どもの本の選び方、乳幼児の事故防止、離乳食の進め方、予防接種、松戸市の子育て支援など、市で行っている出前講座を園内にて実施。離乳食の進め方は園の栄養士が実施
親だけで話せる時間を作るため子どもたちを保育してもらおう
自主事業 地域の未就園の親子に交流スペースとして保育室を開放。 担当の職員が遊びの紹介、相談に応じる。
地域の乳幼児のお子さんと保護者の方に保育園の園庭や保育室で遊び過ごしてもらっている。また、育児相談にも行っている
地元から保育・幼稚園養成校へ通っている学生の実習やボランティア活動の受け入れを行い、園児との交流などをおこなっている。
保育園で近隣の未就学児を対象に親子で参加してもらい、室内や園庭で遊んだり、製作物を作ったり、心理士を交え育児相談を行っている
聖徳大学保育科の学生と共に、中央公園で造形活動を行う。事前に保育園にてワークショップを行い、学生と子どもが交流する。
地域子育て支援拠点事業、乳幼児一時預かり事業、利用者支援事業、こども館事業、森のこども館事業、 (乳幼児の親子の居場所づくり、子育て世代への相談業務、講座開催、小学生、中高生の居場所づくり 他)
中学生と乳幼児のふれあい体験の場を提供
子育て親子の交流の場の提供と交流の促進 子育てに関する相談、援助の実施 地域の子育て情報の提供
利用者は0歳～就学前児と保護者。利用時間は月～土の9:00～16:30（祝日・日曜・休館日は休み）。スタッフ7名、内2名はコーディネーターである。内容は子育て親子の交流の場の提供を行う。子育てに関する相談・援助。地区の子育て関連情報の提供。
3歳以下の親子に子育てサロンを月1回開催し育児相談、遊びなど集会場全面無料開放

子ども達に昔の遊び（こま、けん玉、お手玉、あや取りなど）を一緒に楽しんでいる
ハロウィン、クリスマス会などの各会合
畑を借りて農作物を育てる、収穫祭

《世代間交流》

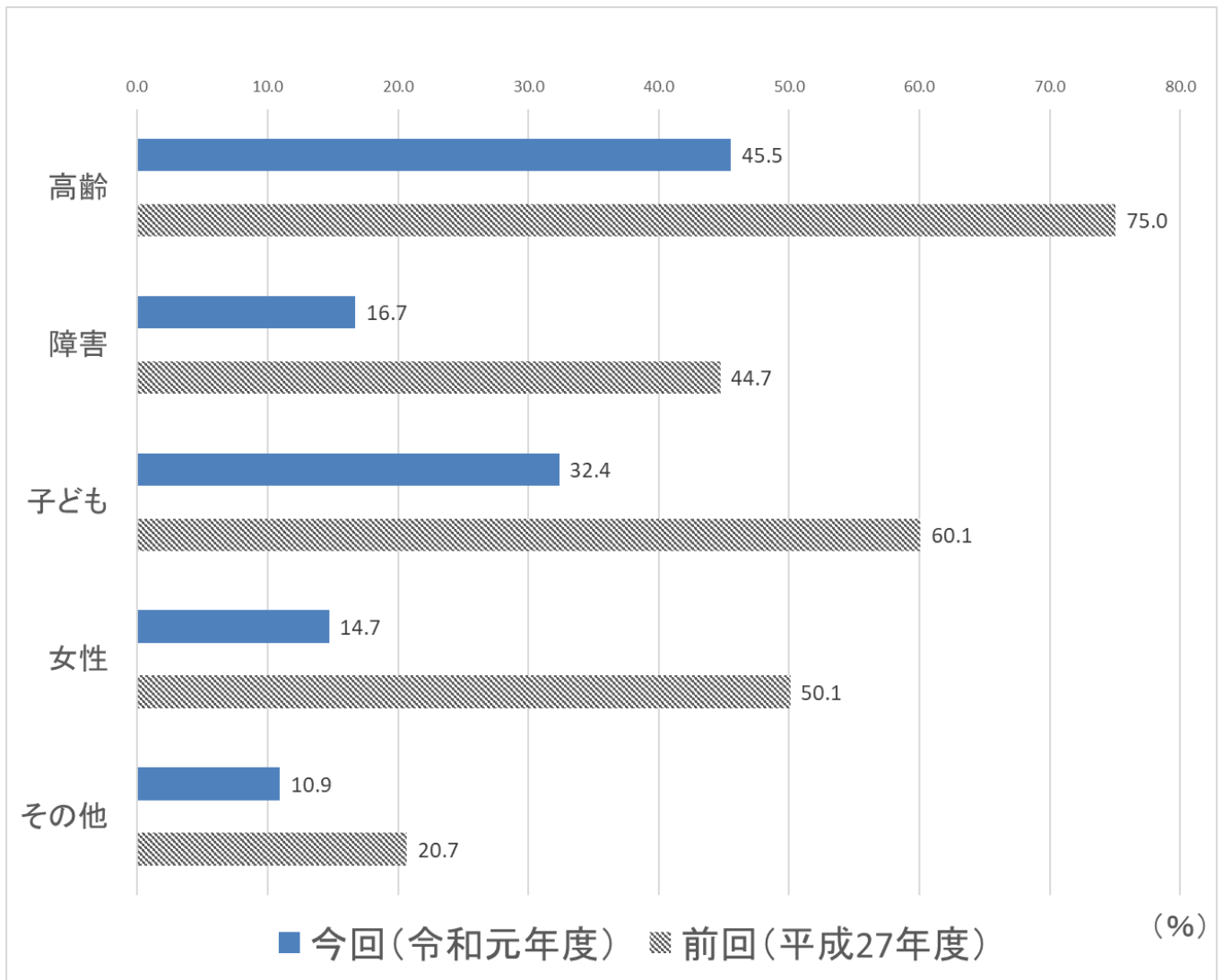
年に1度センターを貸切り、おまつりをする。小、中高生の演目、ゲーム、ビンゴ、カフェ、野菜、花売り、駄菓子、ポップコーン等
* 概ね毎月第一土曜日 14:00-16:00 子どもの居場所を提供
* 公共機関を利用した子どもの居場所づくり
* 児童委員としての活動の一環（いつも見守る大人がいるよ）
* 異年齢、他学校区の子どもたちの交流
子どもと高齢者の居場所活動、地域の大人と子どもの交流を図るイベント
毎週金曜日 17~21:30、小学生の宿題サポート、子どもたちの調理体験、子ども及び親子連れへの夕食の提供、遊びタイム
老人施設に子どもたちが行き、ふれあい遊びや制作など行い交流を持つ
地元から保育・幼稚園養成校へ通っている学生の実習やボランティア活動の受け入れを行い、園児との交流などをおこなっている。
地域子育て支援拠点事業、乳幼児一時預かり事業、利用者支援事業、こども館事業、森のこども館事業、（乳幼児の親子の居場所づくり、子育て世代への相談業務、講座開催、小学生、中高生の居場所づくり 他）
中学生と乳幼児のふれあい体験の場を提供

《文化・芸術》

福祉施設訪問ピアノ伴奏で利用者さん達に歌ってもらい元気を届ける コンサート等音楽会を開催し市民との交流を図る サロン等開催し町内会との交流を図る
松戸市の名所旧跡等の日本文化に関する研修及び調査活動 外国人への名所旧跡及び日本文化体験等の紹介並びにガイド活動 松戸市在住外国人への日本語を含む多言語による生活ガイド
どっこいしょでありがとう会は高齢者が元気でいきている喜びを日々感じながら一人ぼっちで淋しい思いをしないようにと私がどっこいしょと掛け声かけて立ったり座ったりし、いつも感謝して生きているのでその名とした。 お年寄りの人々が元気で行き、日本の和太鼓で幼い子達や地域とふれあいを持って欲しいと曲も作り皆の笑顔に私も笑顔になっています。
絵画、写真、手芸等の作品展示会、運動会での交流、花植え
七夕。サマーフェスティバル クリスマス・ハロウィン・餅つき 庭園の花等の管理

6 対象者(複数回答)

回答数：448



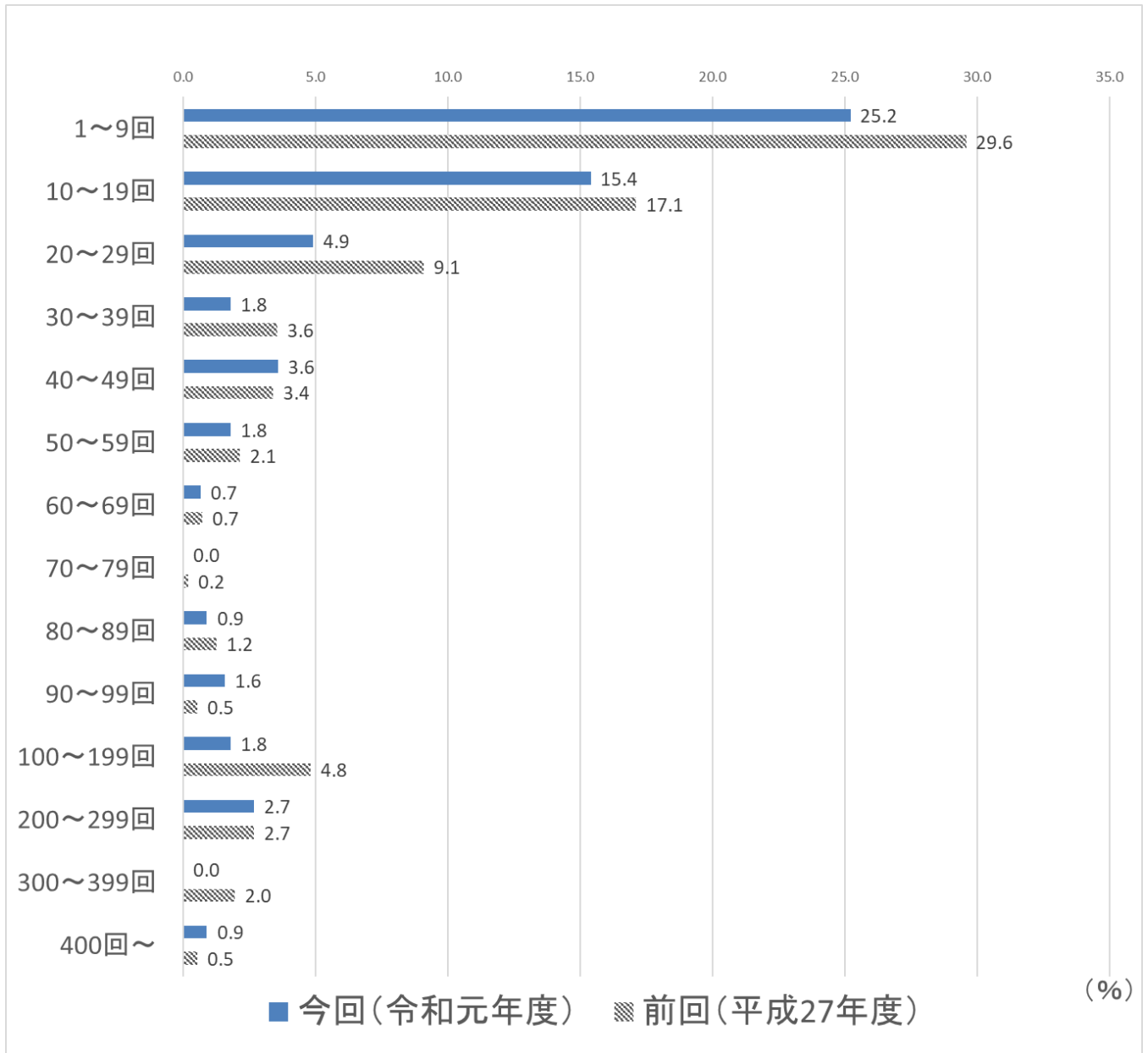
◆団体種別 (取り組み数)

	民間企業		複合サービス		福祉関係機関		市民活動登録団体		地域団体		町会・自治会		計	
	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27
計	7	13	37	28	58	85	52	180	100	140	285	960	539	1406
1 高齢	2	5	9	10	22	29	18	48	43	52	110	277	204	421
2 障害	1	3	6	1	4	9	10	34	20	34	34	170	75	251
3 子ども	1	2	13	9	16	25	10	39	21	20	84	242	145	337
4 女性	1	3	4	8	9	13	6	38	6	21	40	198	66	281
5 その他	2	0	5	0	7	9	8	21	10	13	17	73	49	116

※塗りつぶしは、各列上位3位以内

7 開催数(回/年)

回答数：448



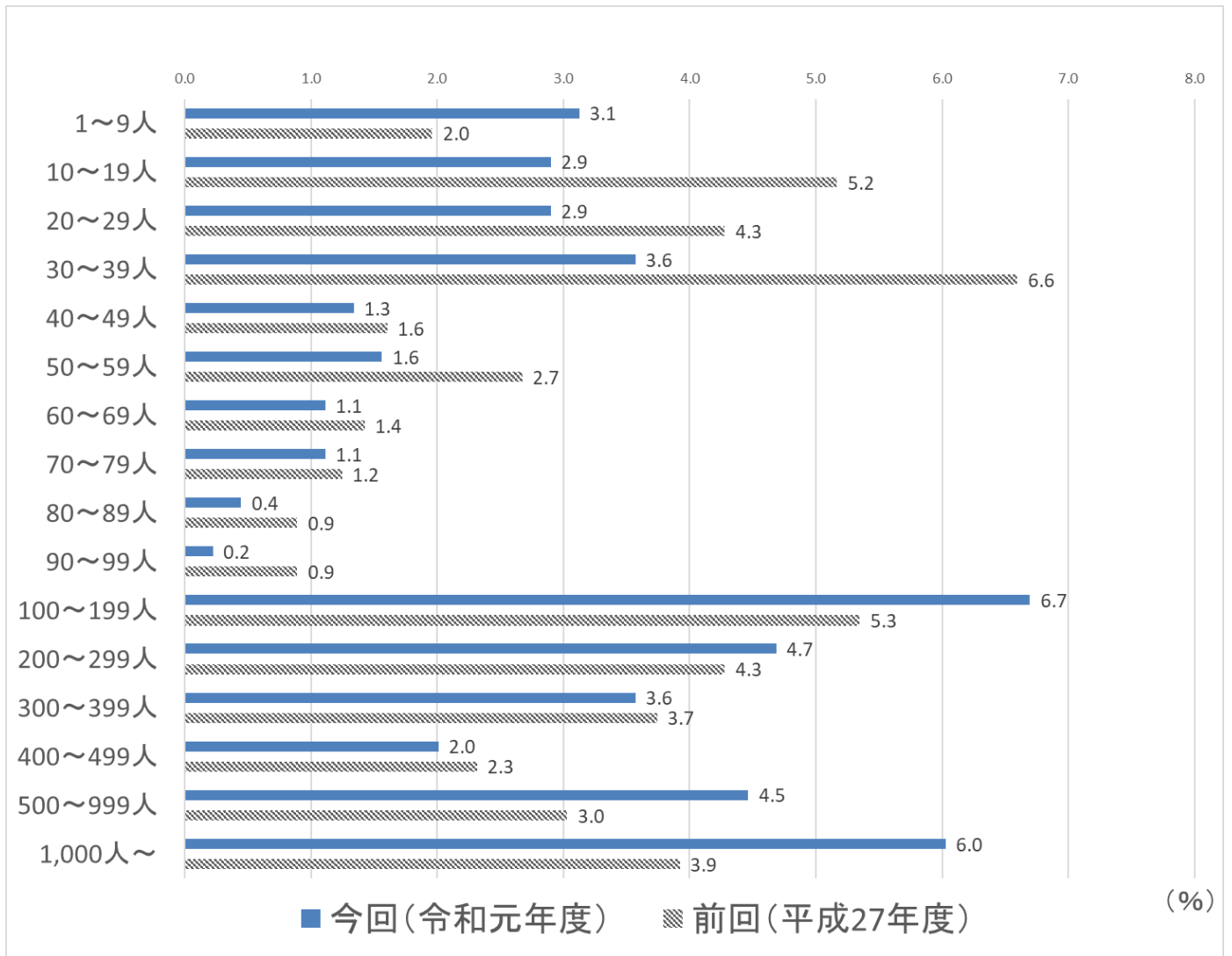
◆団体種別 (取り組み数)

	民間企業		複合サービス		福祉関係機関		市民活動登録団体		地域団体		町会・自治会		計	
	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27
1 1～9回	3	1	11	0	10	16	4	18	20	23	60	108	108	166
2 10～19回	0	1	0	1	6	8	6	13	20	10	34	63	66	96
3 20～29回	0	0	0	1	4	8	1	4	4	6	13	32	22	51
4 30～39回	0	0	2	1	0	2	0	3	1	1	4	13	7	20
5 40～49回	0	0	1	0	3	0	3	3	2	4	8	12	17	19
6 50～59回	0	0	0	0	1	1	2	1	0	2	6	8	9	12
7 60～69回	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	3	3	4
8 70～79回	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
9 80～89回	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	3	4	4	7
10 90～99回	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	3	1	4	3
11 100～199回	0	0	0	0	1	1	1	7	1	4	4	15	7	27
12 200～299回	0	1	0	0	1	0	1	2	3	2	7	10	12	15
13 300～399回	0	0	0	0	0	4	0	1	0	1	0	5	0	11
14 400回～	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	0	1	4	3

※塗りつぶしは、各列上位3位以内

8 利用者(会員)数

回答数：448



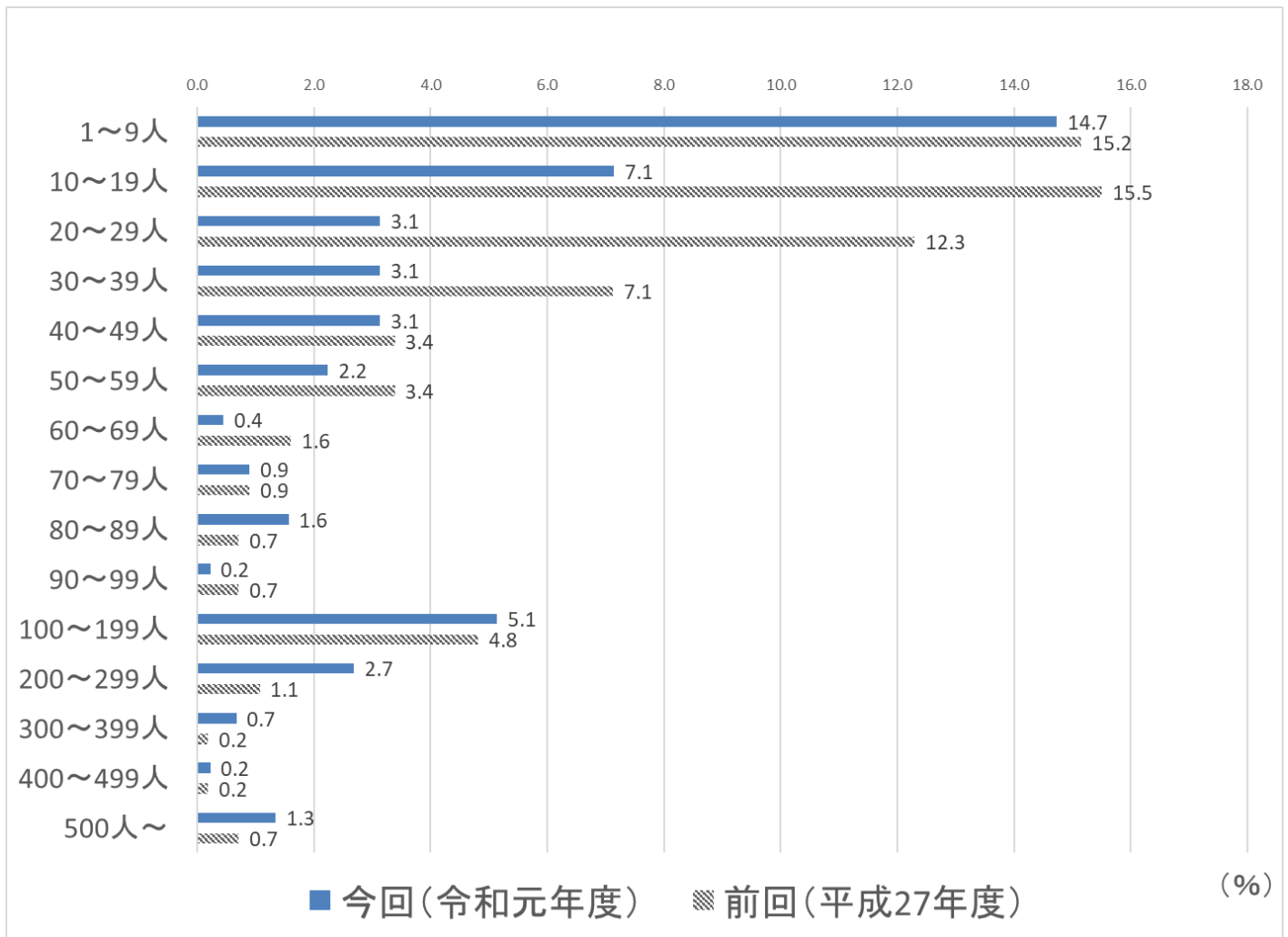
◆団体種別 (取り組み数)

	民間企業		複合サービス		福祉関係機関		市民活動登録団体		地域団体		町会・自治会		計	
	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27
1 1~9人	0	1	2	0	3	2	2	2	0	0	2	6	9	11
2 10~19人	1	1	0	0	1	4	0	3	2	7	9	14	13	29
3 20~29人	0	0	0	0	3	4	2	2	0	4	7	14	12	24
4 30~39人	0	0	0	0	4	6	0	6	1	4	11	21	16	37
5 40~49人	0	0	0	0	2	1	1	0	2	2	1	6	6	9
6 50~59人	0	0	0	0	1	1	1	4	1	3	5	7	8	15
7 60~69人	0	0	0	0	1	1	0	0	1	4	3	3	5	8
8 70~79人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	6	5	7
9 80~89人	0	0	0	0	0	1	0	1	1	2	1	1	2	5
10 90~99人	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	2	1	5
11 100~199人	1	0	1	0	2	2	3	9	7	6	16	13	30	30
12 200~299人	0	0	0	0	0	2	1	5	4	4	13	13	18	24
13 300~399人	0	0	1	0	1	3	3	2	6	1	5	15	16	21
14 400~499人	0	1	0	0	0	1	3	2	3	3	4	6	10	13
15 500~999人	0	0	2	2	2	0	2	4	8	1	7	10	21	17
16 1,000人~	1	0	1	0	5	3	6	8	8	6	9	5	30	22

※塗りつぶしは、各列上位3位以内

9 従事者数

回答数：448



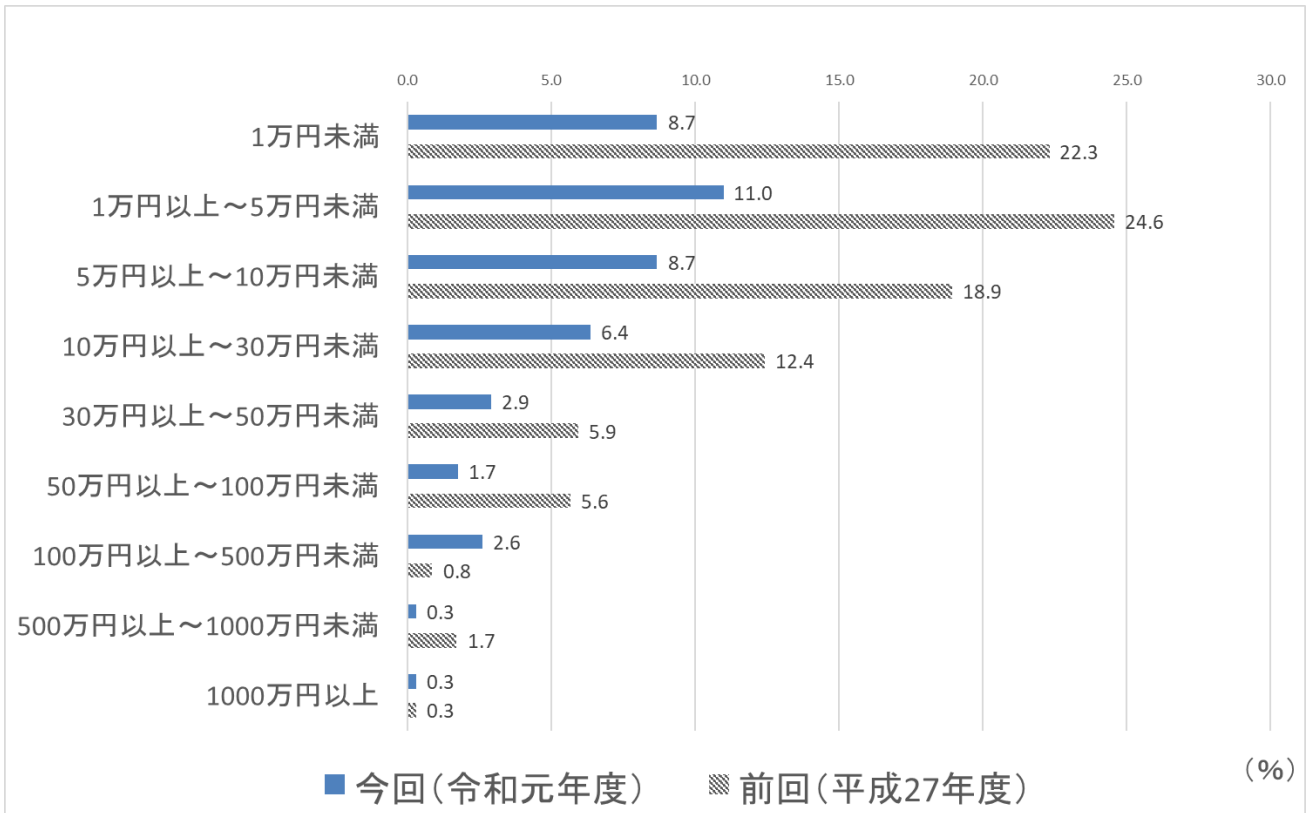
◆団体種別 (取り組み数)

	民間企業		複合サービス		福祉関係機関		市民活動登録団体		地域団体		町会・自治会		計	
	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27
1 1～9人	0	0	0	1	21	19	10	13	7	12	43	40	81	85
2 10～19人	0	0	1	0	0	5	2	10	8	11	24	61	35	87
3 20～29人	0	1	3	0	2	4	0	9	5	15	10	40	20	69
4 30～39人	1	0	1	0	1	2	0	2	7	11	5	25	15	40
5 40～49人	0	0	1	0	0	0	0	2	4	3	9	14	14	19
6 50～59人	1	0	1	0	0	0	0	3	2	2	6	14	10	19
7 60～69人	0	0	0	0	1	0	1	4		2	3	3	5	9
8 70～79人	0	0	1	0	0	0	0	2	1	1	3	2	5	5
9 80～89人	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	4	3	7	4
10 90～99人	0	0	0	0	0	2	1	1		0	0	1	1	4
11 100～199人	1	0	1	0	2	0	3	6	7	2	5	19	19	27
12 200～299人	0	0	0	0	1	0	3	2	5	1	4	3	13	6
13 300～399人	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	3	1
14 400～499人	0	0	0	0	0	0	1	0		0	0	1	1	1
15 500人～	0	1	0	0	0	0	1	1	3	1	3	1	7	4

※塗りつぶしは、各列上位3位以内

10 活動経費(町会・自治会のみ)

回答数：448



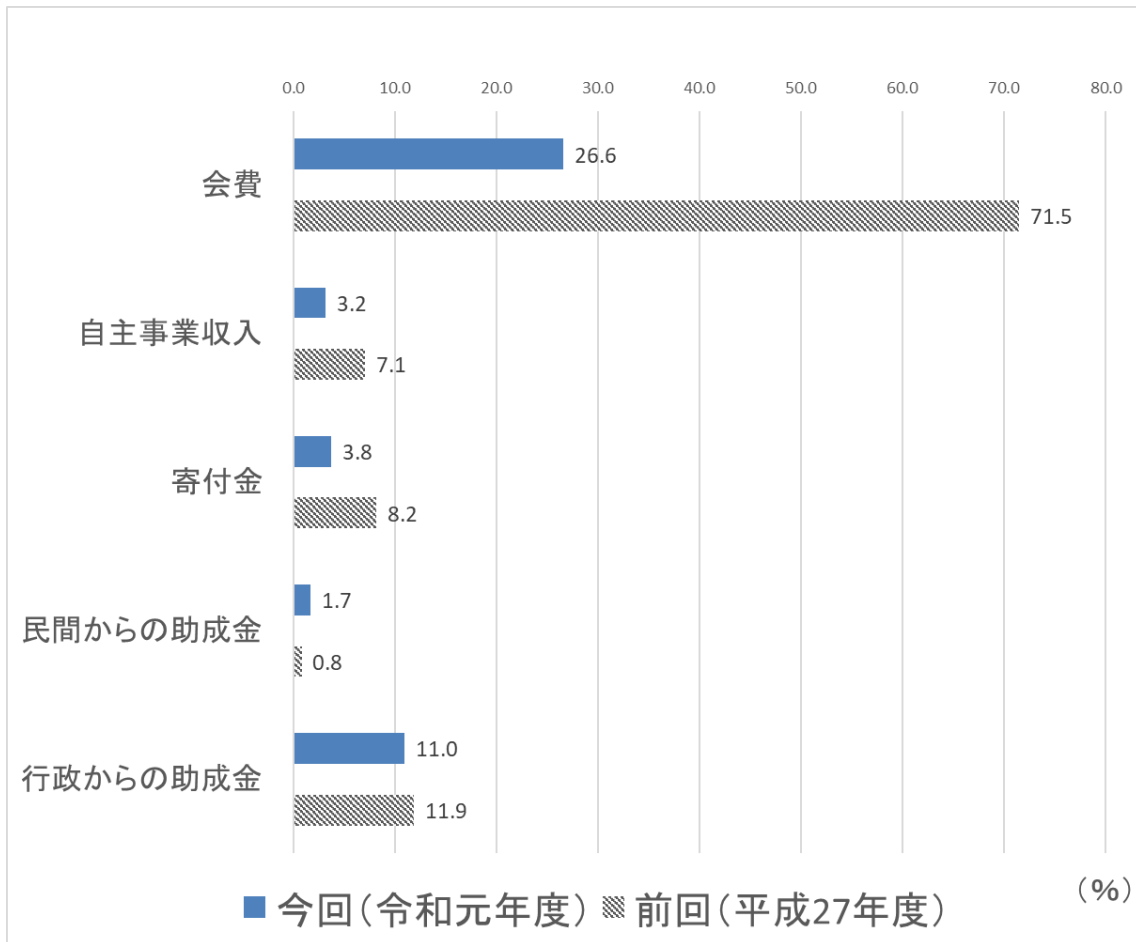
◆団体種別 (取り組み数)

		町会・自治会	
		R1	H27
	計	147	328
1	1万円未満	30	79
2	1万円以上～5万円未満	38	87
3	5万円以上～10万円未満	30	67
4	10万円以上～30万円未満	22	44
5	30万円以上～50万円未満	10	21
6	50万円以上～100万円未満	6	20
7	100万円以上～500万円未満	9	3
8	500万円以上～1000万円未満	1	6
9	1000万円以上	1	1

※塗りつぶしは、各列上位3位以内

1.1 財源(収入源)(町会・自治会のみ)(複数回答)

回答数：448



◆団体種別 (取り組み数)

		町会・自治会	
		R1	H27
	計	160	352
1	会費	92	253
2	自主事業収入	11	25
3	寄付金	13	29
4	民間からの助成金	6	3
5	行政からの助成金	38	42

※塗りつぶしは、各列上位2位以内

12 活動メリット(自由記載)(抜粋)・・・以下、原文のままの掲載となります。
《まちづくり》

1. 市内の緑化推進 2. 市内ボランティア団体の交流 3. 市内交通安全
家族会に参加することで、孤立を脱却し家族が元気になった
民生委員として一人1つに関わる事を活動の目標としている
地区社協行事で大根堀を行い参加数が多い
孤立しない積極的に話しかけている
参加している方に大変喜んでもらっています
大雨時などにての排水
町会内の活動に参加しているので、地域の中に入り込めていける場所
地域とのふれあい
地域のお客様とお話しができて利用に対して意見要望を聞けること
地域の人と触れ合える
① 廃食油回収によるごみの減少・削減、CO2の削減による地球環境の改善
② 市民間の交流の活発化
③ 回収拠点、協賛店として参加された商店及び商店街の活性化、意識の変化
困ったときはお互い様
参加者・支援者同士の輪が確実に増えている。講師を出来る人が出てきている
施設の皆さんの笑顔に我々も元気をいただいています。
ちょっとした相談をコーヒーを飲みながらできることで居場所になっていること
子ども達の成長を感じられること、自分のキャパシティが広がる事
多くの人達と出会いがあり特に音楽仲間が沢山増えた音楽の発表の場が増えた
外国人に松戸市の名所(含む人的交流)を紹介する事の充実感
ボランティア本人の健康維持、包括の職員だけでは行き届かない所まで実施してくれたり気づいてくれる。
近隣住民との交流
地域住民の方との交流は勿論、健康維持や向上にも繋がっている。また開かれた施設作りにもつながり多方面での相談にも繋がっている
町会の役員が見つかる
他地域との交流
参加した方との繋がりが良くなった
町内のコミュニケーションのアップ。良好な人間関係
街づくりに役立っている
情報交換。困ったときに声の掛け合い
子ども達、地域との交流がある
班長中心の活動としたこと、高齢者中心の内容としたことで積極的に参加してくれている
他の町のボランティア事業に影響している

高齢者と子供たちの交流の場が出来た
会員相互の情報交換及び親睦を図ることが出来る
住民相互の協力と理解を深めている
毎年5月に役員交代があつての最初で最大の催事であり、役員に一体感が持てる
①他町会・自治会との交流 ②子ども（小学生）との交流と安全確保
住民が喜んでいる

《健康・医療》

従事者も健康になる
人の優しさや和み感謝が、見られること
毎回来ている方同士顔見知りになる、帰るときは体が軽くなったと言ってくれる
①音楽に合わせて体を動かす事によるリハビリ効果 ②世代間交流として ③体験者受け入れによる広報効果等
多くの皆さん方と交流できる
各自治会や町会で横のつながり（情報共有）ができる
障害者や高齢者の健康と生きがい
安否確認ができる
参加している方に大変喜んでもらえています
安心して地域で暮らせるための情報提供を行う。なんでも相談できる場所の提供。
「自分のために人のため、人のために自分のため」～自分のためと思って始めたことが人のためになり、人のためにと思って始めたことが自分のためになっていることを強く感じる事ができます。活動の場に参加することが健康の維持と認知症予防になります
参加者・支援者同士の輪が確実に増えている。講師を出来る人が出てきている
近隣諸都市の団体とレシピア交換を行い、調理知識を増すと同時に、高齢者福祉の知識も増える
「家にこもっていると笑わない。集まりどころがあつてよかった。」や、「こんなリラックサ法があるんですね。」とか、「若い時から背骨が弱く、手術や入院を繰り返していたけれど、笑いヨガに出会って、入院せずにいられるし、また、骨密度が上がって嬉しいです。笑いヨガのおかげです。」という感想もいただきました。くらぶを開いてよかったと思います。
ちょっとした相談をコーヒーを飲みながらできることで居場所になっていること
和太鼓クラブは毎週土曜日に日を重ねるごとに皆笑顔もふえ、元気になってくれるのでとても良かったと思います
ボランティアの高齢者の介護予防、参加者の介護予防、包括として今後介入しやすい
従事者・利用者双方に「場」がある
・認知症啓発、認知症予防 ・職員育成及び地域ボランティア育成
地域住民の方との交流は勿論、健康維持や向上にも繋がっている。また開かれた施設作りにもつながり多方面での相談にも繋がっている

活動職員のモチベーション向上（通常業務とは異なる環境にて専門性を活かせるため）
初めて間もないが、交流という点では機会が増えた。
市民町民の反応が喜び
地域コミュニティーができ、顔見知りが多くなり情報交換ができる
高齢者の健康意識が高まった
顔見知り程度だったのに、話ができるようになった。最近転入してきた高齢者の方が近所の方と友達になれた
高齢化が進んでいるがみなさん元気
顔合わせすることで健康状態。困っていることなどを相談
高齢者の状況が掴め、町会員相互の顔が見えるようになり風通しが良くなる。
地域での交流が活発になっている。
助け合いの心が多くなった

《防犯》

LP ガスの利用に当たり、思いもよらない相談を受ける事があり、次回の活動に役立っている
犯罪の抑止力になっていると思う
安心して地域で暮らせるための情報提供を行う。なんでも相談できる場所の提供。
地域の方々との交流が深まる
メンバーは三役＋防災リーダー。見廻りの時の家の状況、空き家や空地などの共有
近隣で空き巣等が多発。当自治会は極めて犯罪が少ない
町内の犯罪が少ない
児童の安心、安全を見守りできる
会員相互の親睦、生活環境の向上高齢者の見守り
普段会わない人との交流
地域児童の交通安全の確保
地域の安心安全
防犯、防災等の抑止力になる。高齢者とのコミュニケーション
防犯に対する抑止
住民に青パトロールの存在価値が認められてきた
家に引きこもりがちな高齢者を交流により活動的にする
児童の交通安全・防犯・世代間の交流にやくだっている。
住民交流の増進、防犯意識の向上

《防災》

①地域の方たちと協力できる。誰でも気楽に参加しやすい
②避難所に集まると想定される地域住民の方たちと協力できる
色々な知識が身についた確かな判断が出来る
実施訓練はメリットがある
防災意識の高揚
地域の安心安全
助け合いの心が多くなった
町会員相互の情報連絡体制の強化
防災訓練にて各世帯（無事ですカード）利用
マンション居住者間の「知り合い度」（顔と名前が一致する度合い）が深化している（災害時の非常時の諸活動の前提となる）

《相談支援》

毎回来ている方同士顔見知りになる、帰るときは体が軽くなったと言ってくれる
見守っている人や地域のためだけにとどまらず、本人の知識向上にもなり、有意義な活動となっている。
地域サロンなどへの協力、参加を通して、自分の町会以外の方と知り合いになり、人間関係が広がった。地域に密着して活動していると、信頼してくれている、頼られているという実感があり、喜びを感じ、やりがいになっている。自分自身も張り合いが出て、気持ちも若々しくいられる
会の中で得た情報を自分の地区に持ち帰って共有できる
専門職として参加することで、会の活動を通じて、地域の方々とつながりをもっている。地域内の情報、課題を共有でき、協働につなげられる。
家族会に参加することで、孤立を脱却し家族が元気になった
安心して地域で暮らせるための情報提供を行う。なんでも相談できる場所の提供。
普及啓発活動や相談事業により会員間の結束が強まり、相互の実力アップに繋がってきている。個別相談会へのリピーターが増え、受任へ繋がるケースも見られる。
活動を通して私達の組織や活動内容が広く認知されるようになった
Mama Canの活動を知ってもらえる、ママたちの笑顔
お母さん達から育児の情報が聞ける
対象者横断（制度横断的）の相談支援や分野横断的な地域活動を通じて得た経験や実績を多分野・多領域におけるネットワーク形成等に活かすことができている。
色々な知識が身についた確かな判断が出来る

《就労支援》

地域活動に必要な情報収集
対象者横断（制度横断的）の相談支援や分野横断的な地域活動を通じて得た経験や実績を多分野・多領域におけるネットワーク形成等に活かすことができている。
毎月、企画、運営していくなかで自分自身、色々と情報を得る事ができ、地域の方々の交流も増えてよかった

《障害者支援》

子どもたちには挨拶をしてくれることにより私たちも元気をもらう
障害者の食事会では、一緒に食事をし、話し合いで、自分たちも励まされ続けられる
保健師さんが参加しているので、健康等で相談できる。お互いに情報交換ができる年配の方から教えられることがある
従事者も健康になる
障害者や高齢者の健康と生きがい
利用者から「ありがとう」と言われること。協力者から「お手伝いしてよかった」と言われること
担当相談員の力量アップ、モチベーション向上

《介護》

入所者さまとふれあいが出来、楽しんでもらえ、ボランティアをやってよかったと思う。
認知症啓発・予防。地域住民の皆様との交流。職員育成及び地域ボランティア育成
松戸市特別養護老人ホーム連絡協議会と密に連携がとれ、連絡や情報がより入りやすくなった

《声かけ・見守り》

見守っている人や地域のためだけにとどまらず、本人の知識向上にもなり、有意義な活動となっている
独居高齢者の見守りが定期的に来るため、安否確認が出来、何かあればすぐに他の関係機関につなぐ事ができる
敬老の日の訪問で皆様に喜ばれる
安否確認が出来る。話す事が多くなった
絵手紙に切手を貼って送る事により、日常で数少なく喜ぶ
活動を通して子どもたちや保護者の現状を知る。学校との連携。
無事であるかの確認や、安心を確保してあげられる
地域活動に必要な情報収集
高齢者の声掛け見守りができる
ボランティア本人の健康維持、包括の職員だけでは行き届かない所まで実施してくれたり気づいてくれたりする。

ボランティアのやりがい、地域の居場所づくり
近年の利用者は、引っ越しをしてきたばかり、誰かに話を聞いてほしい、保健センターから外に出よう働きかけられたなどの理由での利用者が多く、目的である保護者間の交流の場やスタッフによる傾聴の場、また相談診療を受けることを躊躇している方にとって、ワンステップ置ける場となり、子育て支援の役割を担っている。
特養の存在を住民の方々に周知できる
喜ばれています
毎日の活動で要員相互のコミュニティーが深化 声掛け等による認知度向上で町会イベント開催時の応援度も向上
地域コミュニティーができ、顔見知りが多くなり情報交換ができる
顔合わせなど元気になるもと
町会の役員が見つかる
新住民が多く地域に溶け込みやすい。町会への新加入者が増加
種々目的に相互効果が期待できる
交流が始まった。健康状態の把握ができる
参加した方との繋がりが良くなった
たくさんの人と会える。情報が集まる
地域の実態が把握できる
顔合わせすることで健康状態、困っていることなどを相談
児童の安心、安全を見守りできる
地域での交流が活発になっている
普段会わない人との交流
地域住民及び会員の情報収集
高齢者会員の近況把握が出来る
子ども達とのコミュニケーションが図れる

《サロン》

お母様の話し相手になることで安心される。畳の場所なのでハイハイが十分にできる 友愛訪問と違う一面を見ることが出来る
核家族がほとんどの社会の中で、自然に学べなくなってしまったことは多い。そのことに気づけただけでも多いに利点があるが、交流することでお互いに気持ちが安定したり、楽しい時間を過ごすことができている。
ちょっとした相談をコーヒーを飲みながらできることで居場所になっていること
子ども達の成長を感じられること、自分のキャパシティが広がる事
多くの人達と出会いがあり特に音楽仲間が沢山増えた音楽の発表の場が増えた
家庭で子育てをしている親の子育て状況を知ることができ、支援に繋げることができる。
従事者・利用者双方に「場」がある

地域住民の方との交流は勿論、健康維持や向上にも繋がっている。また開かれた施設作りにもつながり多方面での相談にも繋がっている
活動職員のモチベーション向上（通常業務とは異なる環境にて専門性を活かせるため）
喜ばれています
近隣の友好関係の維持
市民町民の反応が喜び
3 町会合同のサロンだが、他町会の方とも一緒に活動することが高齢者の友だち作りによいと思います
顔見知り程度だったのに話ができるようになった。最近転入してきた高齢者の方が近所の方と友達になれた
毎月、企画、運営していくなかで自分自身、色々と情報を得る事ができ、地域の方々との交流も増えてよかった
たくさんの人と会える。情報が集まる
顔合わせすることで健康状態、困っていることなどを相談
地域での交流が活発になっている
楽しみでくる人仲間づくり活動範囲が広くなり元気な顔が見える
月ごとに内容を変えて、出来るだけ参加してもらえ行事内容にしている
自分の学習になる。人とのつながりが増えて知り合いが多くなる。楽しいことが増える
皆から元気をもらっている
参加者は楽しみにしている
参加者が増加し、顔見知りになった
家に引きこもりがちな高齢者を交流を通じて活動的にする
高齢者と子供たちの交流の場が出来た
おしゃべりサロンで知り合った人と会話が增えた
友達が出来た
参加者同士冗談言ったり、笑いあったりするようになった
住民が喜んでる

《子育て支援》

人の優しさや感謝が、見られること
会員37名全員退職高齢者（74歳～83歳）ですが、社協・おもちゃの病院のHPを見て入会し、おもちゃの修理を通していろいろと考え元気に活動している
お母様の話し相手になることで安心される。畳の場所なのでハイハイが十分にできる
世代間の交流や、こどもたちの遊び場
お母さん、お父さんが交流を持つことが出来る。悩みを話し合えたりする
孤立しがちな親子が他の親子を触れ合う機会になっている。広い室内でのびのび遊べるので、夏場・冬場の外遊びの代用になっている
地域の子どもの家庭のご様子がかいまみえることができ、ニーズを行政に伝える

子育て世代同士の交流の場
家庭で子育てをしている親の子育て状況を知ることができ、支援に繋げることができる。
保育園とはどんなところか見てもらえる。 また、参加時に見学を希望されている方には対応している
中学生のボランティアなどでは将来こどもと関わる仕事がしたいといった感想をいただいたり、実習生においては実習後当園に勤める職員も何名かいる。
お母さん達から育児の情報が聞ける
保育士を目指す学生との交流→就職につながることもある
対象者横断（制度横断的）の相談支援や分野横断的な地域活動を通じて得た経験や実績を多分野・多領域におけるネットワーク形成等に活かすことができている。
0歳から18歳、子育て家庭への支援として活動していますが、メリットはたくさんあって、一番は、利用者からの感謝の言葉やここがあって子育てががんばれた。という言葉を知ると、やっていてよかったと思える。
子育て世代に関心を持ち、敷地内から広場までの間も見守りしてくださる、シニア世代の方がいて下さることをとてもありがたく感じています。
乳幼児とその保護者の居場所があるという利用者の安心間につながっていると思う
近年の利用者は、引っ越しをしてきたばかり、誰かに話を聞いてほしい、保健センターから外に出よう働きかけられたなどの理由での利用者が多く、目的である保護者間の交流の場やスタッフによる傾聴の場、また相談診療を受けることを躊躇している方にとって、ワンステップ置ける場となり、子育て支援の役割を担っている。
新住民が多く地域に溶け込みやすい 町会への新加入者が増加

《世代間交流》

①子ども会と老人会のそれぞれの行事に相互が参加し、世代交流が積極的に行われている各委員がサポートしあっていて、とても活動しやすいと評価されている
②演芸・食事会に参加することで、地域と交流する機会となり、高齢者に喜ばれる
古くから住んでいる方々と最近入居された方の世代をこえて交流が出来るきっかけとなった

《文化・芸術》

多くの人達と出会いがあり特に音楽仲間が沢山増えた音楽の発表の場が増えた
外国人に松戸市の名所（含む人的交流）を紹介する事の充実感

13 活動当初と比較して変化したこと(自由記載)(抜粋)・・・以下、原文のままの掲載となります。

《まちづくり》

親同士が仲良くなりメール交換等している
以前より声掛けしやすくなった
顔見知りが増えた
地域のお客が増えた
① 廃棄されていた家庭用廃食油の減少(30年度3700Lの回収)
② 市民及び商店、商店街の回収意識の向上
ボランティアの高齢化
参加者と会員の高齢化、ボランティア活動従事したいという人に対価を求める傾向が強くなっている
一対一での、深い関わりが出来てきた
歌唱力が向上した。バルーンアートの制作者と技術が増加した。
4年前に比べ、だんだんと参加者が増えて、実施場所が増えました。
従事者が1名増員した。
子ども食堂の認知度
元気になった、体調等常に管理し、より健康になった
元々、教育委員会生涯学習推進課が2017、2018年に主催した「出来るだけ多くの外国人に松戸市の文化を紹介しよう」という講座の受講者によって設立した団体であり、引き続き、講座の目的達成のため、研修などを通して努力を重ねる。
元は、かたくなになっていた人もうちとけて、自分の苦しみや喜びも相談するようになり、軽い運動や、毎月の誕生日会のプレゼント等と盛り上がり会を計画してよかったと思います。
ボランティアの人が慣れてくると自主的になってくる
私たちのスタンスとしては特に変化はありませんが、利用者の層や考え方、世の中の変化は感じられる。例えば、働く女性が増えたことで、利用者の層が変わってきた。そのため支援方法や対応の仕方は若干変化しつつある。
役員につながりが良くなり、会員に積極的に声がけするようになった
町内会員の高齢化に伴う活動力の弱体化
坂川がきれいになることで人通りが多くなり環境を意識するようになる
高齢化で準備が出来なくなっている

《健康・医療》

少子高齢化が奉仕活動、イベントの多さに対応できかねる現状は厳しい
長い間で顔見知りになり、お互い安否確認のような話をするようになった
特に多くなった
①発足19年になり、会員の高齢化

②毎年の要請講座により、新会員の増加と共に年齢層が広がっている
町会、民生委員等との交流ができています
少しずつ新しい会員が増えている。活動を支えてくれる賛助会員も増加しつつある
積極的にかかわってきている
年々参加者が増えている
相談事が多い
担当地区外の参加が多く、近くの住民と接点がない方、接点を持ちたくない方の参加が多い。軽度認知などを包括につなぐ役目をしている。
ボランティアの高齢化
一対一での、深い関わりが出来てきた
地域内の交流が活発化し、店舗情報増や共同購入の機会増があつて、生活が多彩になっている。
4年前に比べ、だんだんと参加者が増えて、実施場所が増えました。
ここで活躍するボランティアがまた独自でグループを立ち上げるようになっている 元 気応援事業
誰でも参加可だが、固定メンバーになりつつある。
開催頻度を2ヶ月に1度から毎月へ
運営する上で市民のボランティアも増え、取組みがスムーズになっている。また、くち 込みから健康への意識が高まる意見も聞かれる。
施設の認知度が上がった。
初めて間もないので、今のところ大きな変化はない。 今後体操などの難易度に関しては、地域の方の意見を取り入れ変更予定。
元気な高齢者が多くなっている
少しずつ自治会の内側の様子が分かってきた。
地域の人的ネットワーク継承が進んだ
招待者以外の一般参加者が固定化してくる傾向がある
皆さん元気になっている。よく笑うようになった
話の言葉が多くなり顔色が生き生きしてきた
参加者及び従事者ともども高齢化。役員の担い手がいない。マンパワー不足
高齢化に伴い今後ますます必要性が高まる
ゴミだしから始まった活動だが声掛け、カレーを食べる会・健康講座など活動が増えた 住民にふれあいセンターの活動を理解してもらえるようになった

《防犯》

5時30分のチャイムがなったら帰宅する子どもが増えた
ボランティアの人が慣れてくると自主的になってくる
経年毎に加齢・高齢化となることにより、活動自体困難となる要員少なからず、メンバ ーチェンジで体制維持している

相談者が増えた。何でも頼ってくるので忙しい
当初は昼間だけでしたが、夏期は夜間パトロールあり
協力してもらえる人員が集まらない
事業に対して毎回少しずつ参加者が増えている
非常に訓練が充実していてメリットがある
パトロールをしていると危険個所や新しい発見する
被害の減少と地域住民の意識向上
当初は学童が声掛けしても無口だったが1,2か月が過ぎ返事が出来るようになった
当初の不審者出没が激減した
挨拶や立ち話などが多くなった
見守りメンバーの高齢化が進んでいる。
高齢者が子どもたちと接する事で笑顔が増えた
防犯意識の向上と住民交流
地域の子供たちが落ち着いて行動するようになった
高齢化で準備が出来なくなっている

《防災》

学校を主体として取り組むことにより、児童と保護者が参加し、地域のみで行う防災訓練と比較すると参加者を大幅に増やすことができた
非常に訓練が充実していてメリットがある
パトロールをしていると危険個所や新しい発見する
訓練は定着しつつある

《相談支援》

研修会等が増えた事により活動する委員のモチベーションが上がり、活動が活発になってきた
高支連の活動をつなげることで、蓄積された情報を町会の活動などにいかせてきた 高齢者を支援する側も高齢化している
参加者が学童などの整備により、少なくなっているが、悩みを抱えた子供が時々来る。 障害を持つ子供たちに多く来る。学校等の不登校、長欠児、問題を抱える世帯、貧困等の参加者が多くなっている。
担当地区外の参加が多く、近くの住民と接点がない方、接点を持ちたくない方の参加が多い。軽度認知などを包括につなぐ役目をしている。
ボランティアの高齢化
活動当初から比べれば参加者及び活動地域が大きく広がった。継続的に実施することにより個別相談会への来談者も徐々に増加してきている。
一対一での、深い関わりが出来てきた
活動内で行うイベントの内容が増えました（リサイクル市を行いました）

元は、かたくなになっていた人もうちとけて、自分の苦しみや喜びも相談するようになり、軽い運動や、毎月の誕生日会のプレゼント等と盛り上がり会を計画してよかったです 思います
高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉といった分野において包括的相談支援体制整備や分野間連携が図られてきており、また、生活困窮者支援も始まり、それまでの「制度の狭間」や「支援の隙間」がなくなりつつある。
ボランティアの人が慣れてくると自主的になってくる
誰でも参加可だが、固定メンバーになりつつある。
開催頻度を2ヶ月に1度から毎月へ
相談した人は安心感が出てくる
地域の人的ネットワーク継承が進んだ
時代変化に伴い要求内容も変化する

《声かけ・見守り》

回を追うごとに声を掛けていただくことが増加
子どもたちには挨拶をしてもらえることにより私たちも元気をもらう
ボランティアと会員さんの差がなくなってきたので楽しく会話ができる 会員同士他で会うと会話がはずむ
ボランティアの人が慣れてくると自主的になってくる
毎回ボランティアが参加し会の中心になっていること。
拍子木の音を聞くと、女性は特に安心すると声あり
地域の人的ネットワーク継承が進んだ
役員のつながりが良くなり、会員に積極的に声がけするようになった
見守りメンバーの高齢化が進んでいる
参加者が友人知人に声を掛けてくれ、徐々に参加者が増えた
参加者及び従事者ともども高齢化。役員の担い手がない。マンパワー不足
地域の子供たちが落ち着いて行動するようになった

《サロン》

参加者の年齢が若くなった。男性の増加（参加者）
本庁地区では周りに子育て支援の場がたくさん出来たので、参加者が減った。 お子さんの年齢も2歳位までの参加になった
積極的にかかわってきている
談話よりも催し物を楽しむようになった
参加希望者が多く一年おきに1歳ずつ参加要件をあげている
ボランティアの高齢化
参加者と会員の高齢化、ボランティア活動従事したいという人に対価を求める傾向が強 くなっている

近年、行政から資金援助のある社会福祉法人が増えてきたこともあり、当団体のような公的資金を使わない団体（利用者の負担はほぼ同じ）への要求がすくなくなってきた、
一対一での、深い関わりが出来てきた
高齢者の中で子供向けイベントに参加してくれる人が増えたり、子どもに興味があると言っていたボランティアさんが元気くらぶで実施する講習会に来られて勉強になったと言われることもあった。また、自分達で自主的に運営する気運が高まった
子ども食堂の認知度
元気になった、体調等常に管理しより健康になった
親同士の交流、情報交換等が生まれ、結び付きが強まってきた。
ここで活躍するボランティアがまた独自でグループを立ち上げるようになっている 元 気応援事業
ボランティアの人が慣れてくると自主的になってくる
誰でも参加可だが、固定メンバーになりつつある。
開催頻度を2ヶ月に1度から毎月へ
参加された皆様は一緒に声を出す事や夏ばてをしない秘訣は等質問される等、平均年齢 70代後半とは思えない位明るく元気であり、今後も若さを維持して欲しいと思いました。
特養の役割について徐々にではあるが知られてきた。
ボランティア同士も仲良く活動できるようになった
毎月回覧版で開催報告を回している
基本的に他町会参加OKにしている（地域の仲間作り）
以前は子供中心の夏祭りを行っていたが、子どもの人数が少ない今、あまり意味がない。 サロンとして「話す場」を提供したことで「交流」が積極的に行われ満足度高い
防犯意識の向上と住民交流

《子育て支援》

乳幼児の減少
親同士が仲良くなりメール交換等している
働く母親が増え、育児休業後に子どもを保育園に預けるようになったため、幼児の利用 がかなり減っている
毎年子どもを持つ親から期待が大きくなっている
当初は保育園までの3歳が利用していましたが、最近では1歳過ぎてお母さんが職場復帰 し、卒業される方が多いです。
4年前に比べ、だんだんと参加者が増えて、実施場所が増えました。
活動内で行うイベントの内容が増えました（リサイクル市を行いました）
常連の保護者の方が増加した
親同士の交流、情報交換等が生まれ、結び付きが強まってきた。
見学と合わせて遊んで行かれる人が増えた

私たちのスタンスとしては特に変化はありませんが、利用者の層や考え方、世の中の変化は感じられる。例えば、働く女性が増えたことで、利用者の層が変わってきた。そのため支援方法や対応の仕方は若干変化しつつある。

はつらつクラブ、シルバー人材センターとの信頼関係が深まりました

保育園利用者が増え、広場の利用者は減少傾向にあると思う

活動当初（H10）に比べれば、隣市内各所に「おやこ DE 広場」が数多く開所されたことで利用者の分散が見られる。よって待つ時間なしで利用できる状況となり、ゆったりした中で、親子で過ごせる場となっている。

《世代間交流》

お年寄りの方と笑顔が増えた。名前を覚えてくださり、声をかけてくれる

常連の保護者の方が増加した

子ども達も、初めは構えていたが、お年寄りの方から可愛いね、いくつ？ 上手だね。頑張ったね。大勢の人の前で行った後、保育士とは違う大人たちに褒められることで自信につながる

誰でも参加可だが、固定メンバーになりつつある。

はつらつクラブ、シルバー人材センターとの信頼関係が深まりました

元気な高齢者が多くなっている

年々盛んになっている

高齢化に伴い

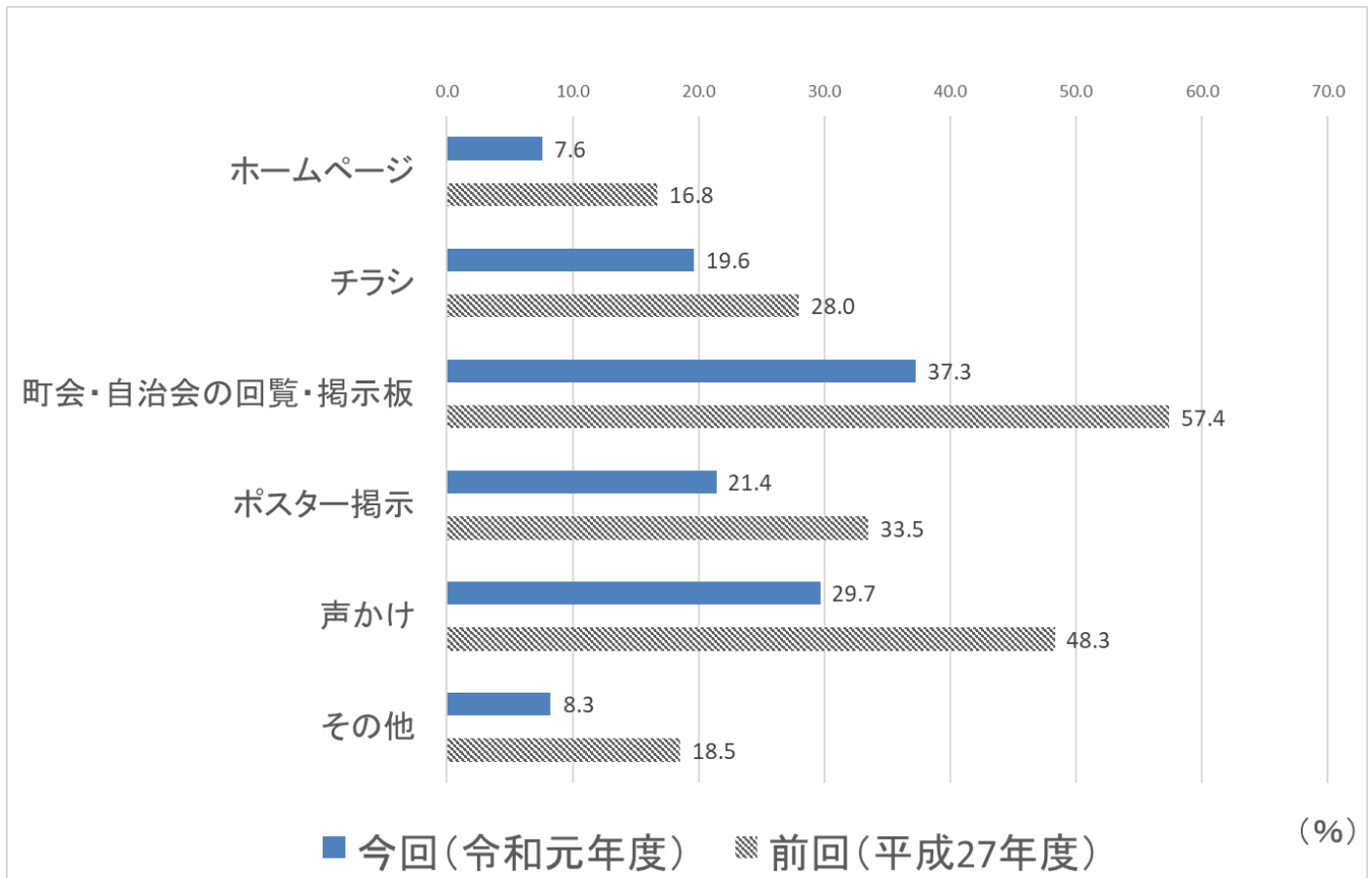
今後ますます必要性が高まる

《文化・芸術》

元々、教育委員会 生涯学習推進課が 2017, 2018 年に主催した「出来るだけ多くの外国人に松戸市の文化を紹介しよう」という講座の受講者によって設立した団体であり、引き続き、講座の目的達成のため、研修などを通して努力を重ねる。

1.4 周知方法(複数回答)

回答数：448



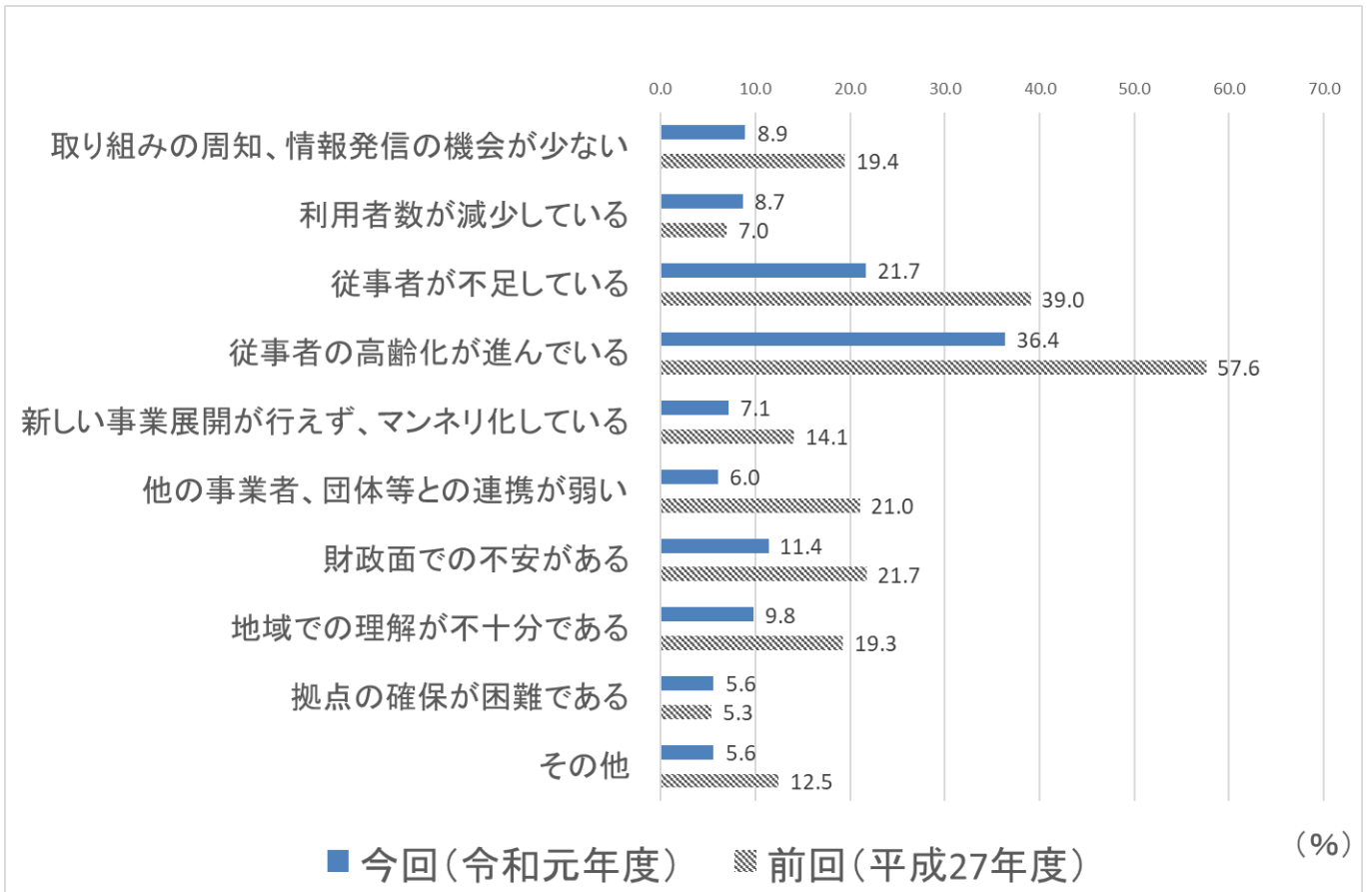
◆団体種別 (取り組み数)

	民間企業		複合サービス		福祉関係機関		市民活動登録団体		地域団体		町会・自治会		計	
	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27
計	2	8	29	34	67	104	69	186	121	157	250	647	538	1136
1 ホームページ	0	2	4	11	10	14	10	38	4	16	6	13	34	94
2 チラシ	0	1	6	11	15	19	18	44	19	30	13	52	71	157
3 町会・自治会の回覧・掲示板	0	1	6	0	9	16	3	13	28	14	121	278	167	322
4 ポスター掲示	0	2	7	0	13	23	15	27	20	22	41	114	96	188
5 声かけ	1	2	5	5	15	24	14	37	35	43	63	160	133	271
6 その他	1	0	1	7	5	8	9	27	15	32	6	30	37	104

※塗りつぶしは、各列上位3位以内

15 問題点（複数回答）

回答数：448



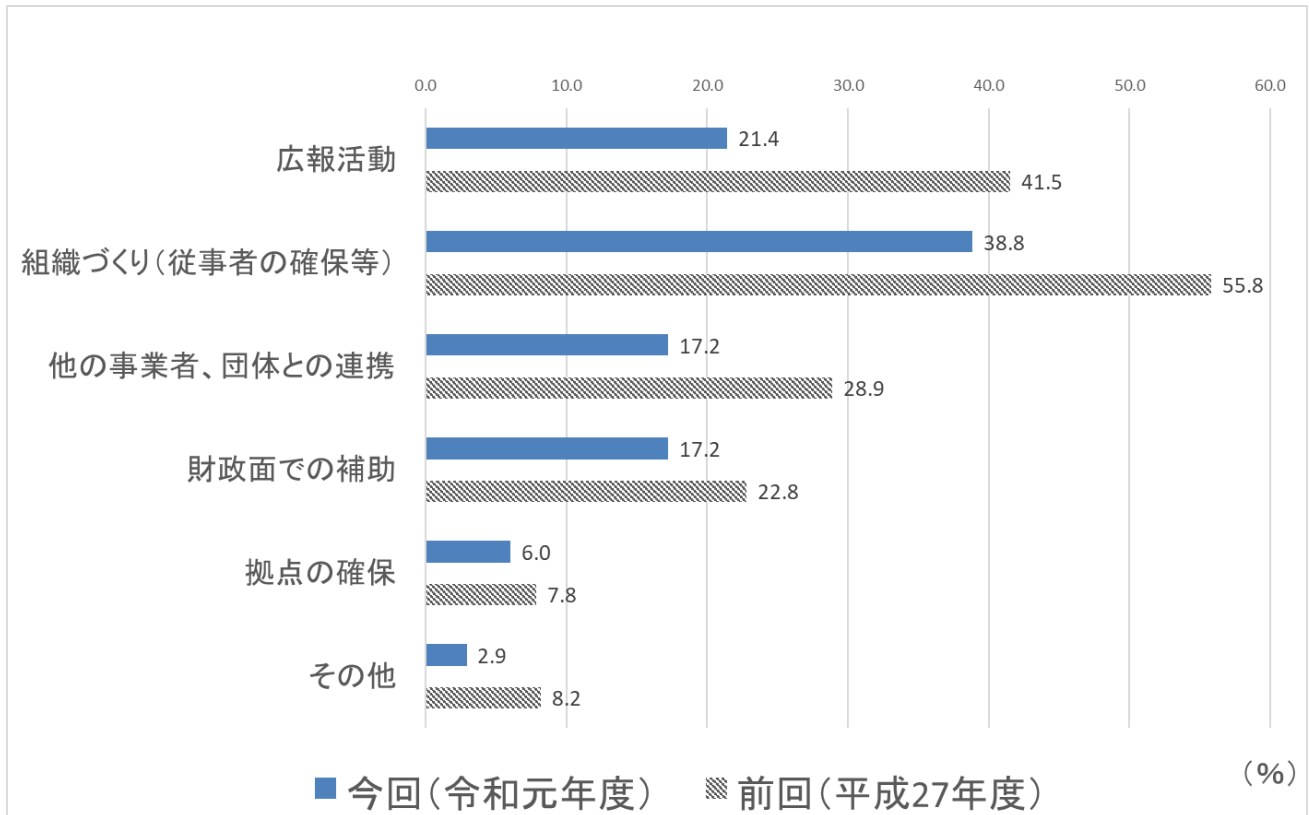
◆団体種別（取り組み数）

	民間企業		複合サービス		福祉関係機関		市民活動登録団体		地域団体		町会・自治会		計	
	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27
計	2	10	25	26	48	65	56	170	105	193	307	753	543	1217
1 取り組みの周知、情報発信の機会が少ない	0	0	4	7	7	17	5	30	9	27	15	28	40	109
2 利用者数が減少している	0	1	3	0	4	6	5	6	7	9	20	17	39	39
3 従事者が不足している	0	1	3	0	5	10	10	26	15	30	64	152	97	219
4 従事者の高齢化が進んでいる	1	0	8	0	5	5	8	26	40	53	101	239	163	323
5 新しい事業展開が行えず、マンネリ化している	0	2	0	0	5	3	3	4	6	14	18	56	32	79
6 他の事業者、団体等との連携が弱い	0	4	2	12	6	4	2	22	4	18	13	58	27	118
7 財政面での不安がある	0	1	2	0	6	5	11	32	7	16	25	68	51	122
8 地域での理解が不十分である	0	1	1	7	1	2	6	10	13	19	23	69	44	108
9 拠点の確保が困難である	0	0	0	0	3	1	4	0	4	2	14	27	25	30
10 その他	1	0	2	0	6	12	2	14	0	5	14	39	25	70

※塗りつぶしは、各列上位3位以内

16 取り組む上で必要と感じること(複数回答)

回答数：448



◆団体種別 (取り組み数)

	民間企業		複合サービス		福祉関係機関		市民活動登録団体		地域団体		町会・自治会		計	
	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27
計	2	9	21	22	51	63	56	133	82	134	252	565	464	926
1 広報活動	2	2	6	11	9	26	15	35	22	41	42	118	96	233
2 組織づくり(従事者の確保等)	0	2	8	0	12	17	13	30	29	33	112	231	174	313
3 他の事業者、団体との連携	0	5	4	11	10	7	8	24	19	29	36	86	77	162
4 財政面での補助	0	0	3	0	12	9	13	35	9	21	40	63	77	128
5 拠点の確保	0	0	0	0	4	2	4	1	3	2	16	39	27	44
6 その他	0	0	0	0	4	2	3	8	0	8	6	28	13	46

※塗りつぶしは、各列上位3位以内

17 ボランティア活動をしている団体が行政に期待する支援や役割・・・以下、原文のままの掲載となります。

《民間企業》

毎年、パンフレット類などを活動経費で揃えているが、防犯、防災などの松戸市で作成するパンフレットがあれば一緒に配布したい

セブンイレブンの清掃活動について広報で取り上げていただく機会があればと考えている

《複合サービス》

地域で開催されているサロン等の情報を一元化し、市民の誰もが身近な会場にいけるよう情報発信を行っていただきたい。

行政、民間団体、事業者問わず地域で開催されている子育てひろばや妊婦・子育て中の親子が参加できるイベント等の情報を一元化し、市民の誰もが身近な会場にいけるよう情報発信を行っていただきたい。

子育てひろば、子ども食堂、高齢者向けサロン等、地域には様々な集いの場が開かれている中、運営の担い手や資金の不足、情報発信の機会が不足するなど、共通する悩みが山積しています。互いの運営の工夫や情報交換を行える機会があればと思います。

小規模事業所なのでボランティアをするのが難しい

参加したばかりなので、行政の守備範囲がどの程度まで支援、協力してもらえるかわからないので、その辺りのアナウンスがあればよいのでは

インターネットを利用した広報活動、及び財政一部補助、駐車場利用が出来るようにしていただきたい

従事者の確保や広報活動

《福祉関係機関》

いつも補助金をだして頂きとてもありがたく感謝しています。どっこいしょ和太鼓クラブでも始めたばかりですがまつどまつりの日曜日に 10 時 2 分より園児、高齢者、卒園時、と舞台にでます。

いつもお茶とお菓子と雑貨日用品のみなので和太鼓クラブにいただける補助金を使用させていただき皆のお弁当にも出させていただけると思います。月 1 回の会の会合や、週一回集まり太鼓をしているところ等市の方も見に来てください。

松戸市内のボランティア団体の名簿が分りやすくなっていること

☆地域レベルでの本質的な総合相談支援体制の構築・整備

☆福祉・医療・介護・教育・司法といった多分野間連携やネットワーク形成における拠点づくりやバックアップ

加齢や疾病に伴うADL低下により、外出困難になっていく高齢者が増加している。社会的にも高齢者の運転免許返納の課題もある。こういった高齢者の移動支援として介護・福祉事業者の空車利用を促進する政策を考えていただきたい。具体的には燃料費や減価償却費に対する

補助金、保険関係など。あるいは、市が貸し出し用の車両を用意して市内各所に配車することも検討できたらよい。また定年退職した元気高齢者に運転ボランティアになってもらえる仕組み（広報や運転講習やマッチングコーディネーターなど）も必要。
場所の提供（公民館、空家、空店舗）等登録し、情報開示し、参加する方が増える
場所の確保・補助金の継続的支援
福祉関係に力をいれてもらっていることはとてもありがたいと思っています。ただやればやるほど、人材と財源、時間が必要になってくるため、もう少し余裕があればと思う時があります。また、地域で活動していく上で、地域で子どもや障がい者、高齢者等をどう見守っていくか、それぞれの立場を尊重し合いながら、連携取れる仕組みなどを一緒に考えていただけることに期待します。
開催場所（町会からお借りしている公民館）の環境整備や安全対策がより一層進められるよう町会との仲介役としての役割をお願いしたいと思います
連携を取るための手段の1つであるITが設置されていないため、情報発信のしづらさと受信も直接できずにいる。今回Iパットの情報システムを活用できるようになったことで、改善できることに期待をしている。
他の介護事業者との連携が今後重要になってくると思われるが特連協中心のとりまとめでは限界があり、行政が中心となって音頭をとっていただければと考えます。
地元との連携は出来ているが、多人数で集まれる場所がないので、設置の支援をお願いしたい
自主的活動について、行政の財政支援の継続、また活動内容の周知への協力を求めます。
もっと活動的に取り組みを広げたいと考えています。 ただ、活動するための手段が分からなかったり、どの活動が地域では求められているのかわかりません。 可能でしたら、行政のHPに活動を始めてみたいが上記のような悩み・不安をいただいている方用の取り組み開始に役立つ「スタートダッシュマニュアル」等があると、多くの方が始めるきっかけになるのかなと思っています。 ＋財政面での補助もあるとありがたいです。
ボランティア等の斡旋があるといいかも
認知症高齢者や障害者が住みやすい街づくりを進めて欲しい

《市民活動登録団体》

松戸里やま応援団傘下の各団体では活動報告書を開示しているが市民への情報開示がなく、その活動実態は殆ど知られていない。希少な里やま保全は地道な活動によるが折角保全整備された森が広く市民に利活用できるようにしたい。一部の行政管理地域や市民が集まるエリアでの活動は比較的認知されているが、その他の団体活動は殆ど知られていない。「緑を守る」活動を「広報まつど」などで継続的に紹介して頂きたい。森の活動に要する道具等は各団体で購入しているが、時に必要となる軽トラックや伐採した樹木を有効活用する枝シュレッダーな
--

<p>ど行政と共同利用できるようにして欲しい。伐倒した枝木の殆どはバイオネットで自然回帰を待っているが、森の通路や農園の堆肥として利用する事が可能となる。</p>
<p>① 現在の協働事業の継続(環境政策課、商工振興課)</p>
<p>後援などの支援はいただいているが、具体的な活動の中での連携、協働、ができればと考えています</p>
<p>市民活動に対する地域自治会の理解を深めて連携を強めていきたい</p>
<p>① 自治会館の利用料金の軽減 ② 自治会の回覧版に市民活動のチラシなどを一緒に回覧していただく</p>
<p>行政に期待、支援願いの前に、自ら、やるべきことをやり切れていないので、本当の課題が何であるか？がわかっていない。 あっと驚くようなユニークな広報、知恵を出した活動に期待します。</p>
<p>会員の高齢化に伴い、戦力が低下。地区の町会との連携を模索しているが、町会も同様の悩みがあり、行政がどのように解決を導き出すか？</p>
<p>財政面での補助。拠点確保の手助け</p>
<p>今後エンディングノート書き方で地域包括支援センターとの協力していく予定であるが、人手を必要とする人員を確保する為に、財政的支援があればより活動が活発に行われるのではないか。現状コスモスの各会員は交通費を自己負担して会場まで来てくれている現況です</p>
<p>活動場所が交通の不便なところが多いため、交通費が負担になっている。</p>
<p>広報をして欲しいです。 チラシを市民センターや図書館、子育て施設などに、配架して頂いたことがあります、棚にきちんとおいてくれるかどうかは市民センターなど施設に任せているので、保証はできませんと言われました。それでは意味がないわけで、市民の活動が活発化しません。町が元気になりません。きちんと保証して頂きたいと思います。お知らせが市民の目に留まる様にしてください。また、行事に対して取材して記事にするなど、市民活動をバックアップして欲しいです。広報まつどに載せてもらうには、申し込むのに期限がありますし、地域新聞に折込してもらうには、お金が必要です。なかなか使いづらいです。</p>
<p>ボランティア時の交通費の支援制度の検討よろしく願いいたします</p>
<p>財政面での助成および広報機会(フォーラムやセミナーの形で)の提供をお願いします。</p>
<p>チラシの設置に協力をしていただける事に期待</p>
<p>セミナー会場の増設をお願いします。</p>
<p>広報面でのご協力</p>
<p>上記4(財政面での補助)の支援の助成金はあるが、継続的な支援がなく、活動を助けられない場合がある。また、定期的なヒアリングや現場訪問を経て関係性をつくることも支援としての安心感になると思う</p>
<p>一度、市の施設に掲示とチラシを置いたが、ほとんど効果がなかった。 広報に地域活動団体の枠を確保して、順次各団体を掲載してもらえば、有難い。</p>
<p>音楽サロン開催等ができる場所の提供 練習や音楽イベント開催ができる場所の提供</p>

当グループの窓口となっている、市民自治課、生涯学習推進課、文化観光国際課のスタッフの皆さんから温かい支援、助言などを頂戴しながらグループの設立、運営、イベントの開催等を進めており、常日頃、グループメンバー共々感謝しております。引き続きご支援を賜りたく、宜しくお願い致します。

《地域団体》

これまでどおり、市役所職員、消防、警察、また消防団などの方にも参加して頂きたい
現在年 11.000 円の補助で何ができるか。補助金を増額してほしい
ボランティアグループの立ち上げ協力
高齢者施設への布を裁断しているのですが、その布が少ない(不足している)
現在から先に問題や課題が発生することが増えると思う。その時点で考えていきたい。
全員が高齢退職者のため、修理道具・開催交通費等個人負担をおねがいしており、年2回行事の負担を少しでも少なくしたいので財政面でより一層協力をお願いしたい
毎月決まった週に場所の確保をして欲しい
補助を増額して欲しい
行政の関心が薄いように思う
ボランティア団体と事業を協働で実施お願いします
市内の障害者や高齢者の方々に車椅子ダンスの楽しさを知っていただき、利用していただく機会が多くあれば良い
相談協力員の選出に町会・自治会が協力的になるよう行政から働きかけてほしい
会員そのものが後期高齢者も多く、自分たちのスキルアップのためにも必要な指導と参考資料を提供していただきたい
行政からの情報提供(高齢者に対する施策等)によって、より見守り活動が意味のある充実したものになると思われる。
イベント開催時のボランティアスタッフの確保 (身体障がい者の介助に経験、関心があるボランティアの紹介)
知名度が低く知らない人が多いので、存在を周知するための支援をお願いしたい。 精神障害に対する偏見・差別を解消するための啓発活動、啓発活動に対する支援をお願いできればと思います
障害者や高齢者は家にとじこもりがち 集まる機会がほしい
市民会館の調理室を利用しているが、お湯の出るところが1箇所のみなので、全ての調理台にお湯が出るようにして欲しい
役所定年になった方がボランティアとして参加をおねがいしたい。相談窓口。財政面での補助
最近では高齢者本人から連絡があり、元気だけれどこの先のことが不安という相談が多い 生活支援センターに連絡して相談に応じているがもっと人数を増やしていただければ決め細やかなケアができるのではないかと

<p>既存の各種団体をつなげていくことが、これからの地域包括ケア(支えあいの地域づくり)には必要不可欠と考えている。</p> <p>地域包括支援センターによるコーディネートを期待したい</p>
<p>ボランティア人数が少ないため、民生委員が主になって行っている(調理)</p> <p>社協に対して積極的にボランティアを増やして欲しい</p>
<p>会食会に参加されている方は心配ないが、参加できない方、高齢で引きこもっている方を一人でも多くさんかしていただくのはどうしたらよいか、と常に思う</p>
<p>保健師さんが年に2回くらい参加して下さいますが、毎回出席していただくと気軽に相談できると思う</p>
<p>* 諸処の役席により、対応が異なり不可解である。当地区の事業は県及び全国で評価を得ているものであり、この事業基盤により全国ではいろいろな取り組みが展開されてきていると自負している。しかしながら、松戸市では非常に評価が低く、派手な事業に目を向けがちであり、その者には行政も後援を図っているが、地道に活動を続けている当地区においては、なぜか評価が低く、今後の事業展開には、児童委員としての活動をないがしろとなる方向しかないのであろうか。改めてしかるべきフォーラム等に参加し、指針を模索したいと考えている。</p>
<p>松戸市の地域福祉計画の中で、役職等(策定に携わる委員)の最低限のレベルアップが望ましく、国の施策、県の施策、市の施策を十分に踏まえ、分り易く策定委員への説明を繰り返し、目的である「住民が安心して暮らせる地域づくりまちづくり」ができるよう、様々な活動があるということ認識したうえで策定を行う。理解していただけるよう行政は努力すべきである。</p> <p>働き方改革、防災に関しては、マニュアルの中で住民に委託していることが(町会長や自治会長)多いが、有事に町会長や自治会長が搾取してしまうことはないのか、心配している高齢者もいます。</p>
<p>半分以上の助成金は(市政協力員の活動費)の感覚。町会長の活動費です。そのうえ、町会からは地区社協の領収書で(交流会などの費用)を町会からいただいていると住民の方が話していました。</p> <p>民児協は参加していないし、関与していないですが、税金ですから、大事にしていきたいですね。</p>
<p>民生・児童委員の役割、特に地域での利用、交流を行政がしっかり訴求(広報共に)してほしい</p> <p>社会福祉協議会と民生委員児童委員協議会との関係性が地域住民に理解されていないように感じられる。</p> <p>市民公開講座等を共催で企画するなど福祉の両輪で活動している現状を PR する必要性が大事と思われる</p>

《町会・自治会》

<p>自治会独自の取り組みであるが、市の出前出張等幅広くサポート希望</p>
<p>前述の課題対応の一環として万が一発生した場合の</p> <p>要員への保険適用内容の充実・向上を図ることによる安心感を高めたい</p>

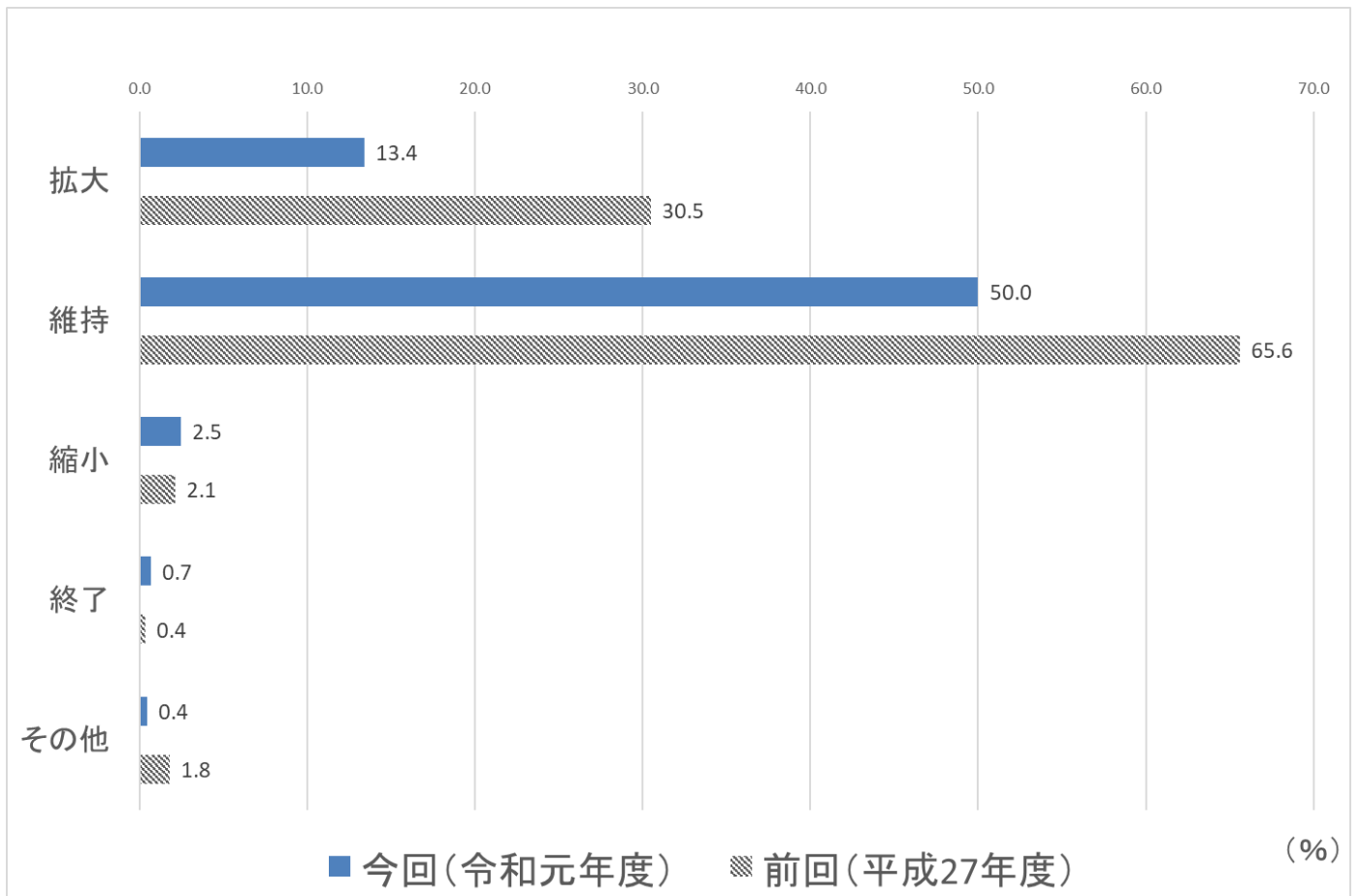
北仲町公園内にデットスペースに町会のハウスが建てられないか、高齢者の集まれる活動を町会活動にしていきたい
猫に餌をやって困る。アパートの住人（外国人）で、ゴミの分別ができてない
高齢者の居住の情報（個人情報厳守で）
市の職員は現地の状況が分かっている人が少ない。積極性に乏しい。言い訳が多い
活動費の補助があるといい。自治会費（¥100／月）が値上げ不可。財政難でこれからは色んな制約ができそう
次年度には行政の出前講座をしてもらおう計画。地域内で集会所の確保ぜひお願いします
いきいき安心センターの方には引き続き、様々な支援をしてほしい
防災への取組などの話も、市役所の方と話すチャンスがあればよい
もう少しやりながら考えていきたい
一緒に活動して欲しい
花苗の提供を続けて欲しいですが、その運送の面倒を見てもらいたい。県道市川線の一部がとても市民の手では負えないので、県への取次ぎをお願いしたい
毎月の催し物をボランティアで出張してくれる個人や団体の紹介
人口増加が著しく、新住民が約8割となっている。
組織づくりをするうえで、人材の発掘が難しい等の問題もある
サロンの企画を考えていく中で、予算もあり料金が発生するものは難しいこともあり、マンネリ化してしまうのが悩み。少しは補助があると助かる
働く女性の増加により従事者の確保が難しい。町会で少しだけ財政支援している
各団体の活動内容の話を聞けるような交流の場を作ってもらったら参加してみたい。現在、年一度サロンに保健師が来て話をしてくれるが、その回数を増やしてほしい
行政ではきめ細かな支援は無理。地域のボランティアと共同で行うことで、本当に必要とされる人に当たれる。
自治会等の実情をより具体的に把握し何が必要かを正確に認識することで、やるべきこと具現化してほしい。
物資運搬のための車の確保は切実
防災訓練については行政として町会に女性リーダーを育てる判断をしてほしい
全てボランティアで活動しているので年1回位の会合を開きたい。その際の費用負担をお願いしたい。
防犯パトロールでは、高齢化が進んでいるので、参加人数が減少している
町会役員のなり手を探す苦労がある中で、民生委員、健康推進委員、防災リーダー、防災指導員、高齢者相談協力委員の推薦を行政から依頼されるが、引き受け手を探すのは簡単ではない。年齢制限や再任不可の条件を付けられるとさらに。高齢化した組織の活動を維持するため、どのようにしたら良いか一緒に考えて欲しい
単身アパートの増加も諸活動を難しくしている。この点も考えていく必要がある
災害時の公助の内容が不明確。特に医療面ではバックアップ体制は出来ているのか。（老人ばかりで何もできない）医療を受けられる場所に運搬していけるのか

<p>取り組み内容を実行する団体と行政が一体となって確認し合う役割の支援が必要</p>
<p>高齢化、認知症、空き家問題等どれも地域問題として深刻な状況だがこれらの問題について行政が現在どの様な取り組みをしているか広報活動を町会・自治会などにした方が良いと思う。その上で現在、行政に期待できることや役割等についての住民の声を聞いた方がよいのではないか</p>
<p>1. 資金援助 2. 支援や役割は実施している現場視察をやってほしい（防犯指導員）</p>
<p>道路幅が狭いので通学路上の白線が引いてもらえない。狭いから欲しいのに。松飛台小近くの信号をスクランブル信号にしてほしい</p>
<p>高齢者の身近なところでの場所づくりを考えてほしい</p>
<p>広報まつどもに掲載してもらい、地域でも協力応援してもらっている</p>
<p>情報の発信、共有、取扱いについて、わかりやすいこと、使いやすいこと、平等であること。高齢者でも不利にならないように ※なんでも「HPを参照」は大問題</p>
<p>今年度で高齢者支援課の補助金がなくなる、補助金支援を頂けると活動を充実させることができる</p>
<p>餅つき機械を地域の有志より借用しているが機械を自治会で揃えて行いたい 自治会予算が厳しいので行政で一部補助する検討して欲しい</p>
<p>①見守り活動で一番困っていることは避難行動要支援者名簿の閲覧条件、地域福祉課は防災関連活動に限定して認めている。高齢者支援課は見守りについてもOKと言っている。これでは現場は困ってしまう。現在、自治福祉部では地域福祉課が認めないので利用できない</p> <p>②民生委員の自治活動への参加がほとんどない。民生委員の理念は分かるが、活動は殆ど承知していない。民生委員は自治会長の推薦が必要と聞いているが自治会活動を経験しないで民生委員になるというのは矛盾ではないか。</p>
<p>個人情報保護法や年金支給開始年齢引き上げにより、組織づくりのための人員確保が難しく結果として町会主催の行事も年々参加者の増員は得られなくなっている。町会として災害時のことを考慮して準備している</p>
<p>高齢化が進み中々若い人の確保が困難</p>
<p>車両維持経費だけでも大変。ガソリン代のみだけでなく補助をお願いしたい</p>
<p>自治会会長、地区会防犯部長、大清水湧水をまもる会会長、健康推進委員協議会会長として企画立案までは単独で出来るものの、運営上のスタッフ集めに苦労している</p>
<p>色々なテーマを見つけ、セミナーを設けているがネタがつかせてしまう。 多様なテーマの助言があれば助かる</p>
<p>町会役員を初めとしてすべての取り組みにおいて従事者の高齢化及び人手不足がある 役所職員の方々の個人での地域活動への積極的な参加を切に願う。（OBも含めて）</p>
<p>現役のサラリーマンのため、土日は会館を開けることが出来るが平日の昼間の会館運営が難しい</p>

<p>現在要支援者リストを毎年福祉課から借用して町会で実態の把握と災害時の支援をどう行うのか等、話し合っている。</p>
<p>高齢者の見守りに関して個人情報の公開がもっと欲しい または支所等で特定の役職（地域、役員等）だけでも教えて欲しい</p>
<p>他団体で実施している諸活動の状況や問題解決の方法等に関する具体例などの情報提供を通じて、町会活動を支援すること</p>
<p>助言と財政面の支援</p>
<p>集会室の収容人数が50人しか入れないのでもう少し集会室を大きく改造したい。補助金が欲しい</p>
<p>昨年まで、松戸市子ども会育成会連絡協議会に加盟していたが、会員減少、役員不足のため、今年退会。一サークルとして活動している。市からの助成などがあっても子どもが少ないので活用できない。役員をする保護者がいないので市の子連れの行事等に参加できない</p>
<p>小さな地域でのボランティア活動は「意義」と「気持ち」そして従事者の自らの「楽しさ」で成り立つので、外からの支援の効果については不明※あるとすれば資金の補助</p>
<p>助成金の情報や援助、他ボランティア団体などとの連携や情報交換の場が欲しい</p>
<p>他団体との交流の場やイベントをしてくれる人の紹介をして欲しい。 現在は、マンションの理事会からの助成金を得ているが、だんだん厳しくなっているので、行政や民間の助成金の情報や支援がほしい。</p>
<p>居住者間の相互コミュニケーションを高める催事等への支援（人・予算） 高齢化対策、生活に役立つ情報（講演等）、講師情報など総合的に発信する情報源が欲しい。（市から情報、ボランティア案内、市の公式WEBサイト等）</p>
<p>町会内の指導者に任せていて町会に補助金は出すが口出ししない。行政に特に期待しない</p>
<p>財政面での補助を増やしてもらいたい</p>
<p>「坂川とまちづくり市民の会」のお手伝いをしているので、そちらの方で水質改善の嘆願署名活動を現在進行中</p>
<p>①現在「松戸まちづくり会議」は助成金（300万円）を受けているが活動資金が不足している増額希望 ②活動内容を広報まつど等の媒体を通じて紹介していただくとモチベーションが高まる</p>
<p>教材の提供及び勉強会の開催など</p>
<p>「元気応援クラブ」制度を利用して立ち上げたが、3年で打ち切りとのこと、もっと長く支援して欲しい</p>
<p>道路が狭いので車の速度を抑える様「ゾーン30」を早く実践して欲しい</p>
<p>勤めの現役世代が多く永く勤められるために人材確保が大変高齢者が多い</p>

18 今後の方向性

回答数：448



◆団体種別 (取り組み数)

	民間企業		複合サービス		福祉関係機関		市民活動登録団体		地域団体		町会・自治会		計	
	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27	R1	H27
計	3	5	11	12	33	46	26	67	58	79	169	354	300	563
1 拡大	0	2	3	11	7	13	14	31	6	29	30	85	60	171
2 維持	3	3	7	1	23	30	12	30	49	48	130	256	224	368
3 縮小	0	0	0	0	2	1	0	3	2	0	7	8	11	12
4 終了	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	3	2
5 その他	0	0	1	0	1	2	0	2	0	1	0	5	2	10

※塗りつぶしは、各列上位2位以内

19 今後の取り組み内容・・・以下、原文のままの掲載となります。

《複合サービス》

毎月決まった会場での開催でなく、子育て中の親子が参加しやすい会場に出向いて「出張子育てひろば」の開催を検討中です。

夏祭りにおいて切手等（記念切手）の販売

《福祉関係機関》

和太鼓は新たに又高齢者用の曲も歌もふりつけも皆で考えて作り、松戸まつりや高齢者大会で皆さんに見ていただきたいと思います。

世代間の交流

「ひきこもり」や「子ども・若者」に関する支援活動やネットワークづくりに力を入れていきたい。

独居高齢者へのゴミ出し支援や高所作業（換気扇の掃除や蛍光灯の交換など）の住民助け合い。

既存のグループに何か手伝える事が無いかをたずね支援し、力をつけてもらいたい 例）元気応援等

妊婦向けに情報を発信していくための仕組み

おやこ DE 広場等に来ることができない子育て家庭の支援について

現在、月2回おひさまの会として、手遊び、ふれあい遊び等を行っているが、今後さらにイベントの充実を図っていきたい。

日曜日はデイサービスが休みであり、日曜日の午前中をデイサービスホールを地域に開放していきたい。（9時～12時）

今年度から「通いの場」として、新たな形での取り組みを始めた。何をするにも、場所の確保は重要な課題である。

サロン関係については、近隣住民に周知を広げる予定。

無料送迎サービス（地域住民の方の）できれば…ですが。

今年度中に（11月予定）町会の協力を得ながら、遠くまで買い物や催事場に行くのが困難な方にもご利用いただける「物産展」や「移動スーパー」を開催。

29年度まで不定期で行っていた「ご近所茶話会」「介護相談会」の再開。

6月に法人開設以来行っていたバザーを、今年度から地域交流会とし開催（済み）。

（無料でのゲームや、2団体（コーラスと大正琴）の演奏会、移動カフェ、チーバ君来設など）今後も地域交流会は開催予定。防災フェアとして町会の協力も得ながらの、炊き出し訓練など（30年度は法人のみで開催）

教員免許取得に関する介護等体験の受け入れや近隣小学校で開催される「ゆめ、仕事ぴったりに体験」への参加等教育活動との連携

地元自治会との連携による福祉活動の検討

認知症の周知活動の検討

《市民活動登録団体》

今ある緑を守り、新たな緑を増やす活動として保全活動に参加する方を増やす。現役をリタイアした方、仲良しグループ、子ども食堂運営者、ママさんグループ、その他市民活動団体関係者などに農園を貸出す。並行して森の保全活動に参加頂き、広く利用活用していただく。
現在の活動を着実に、継続して実施していきたい。その中で体制など整えば（会場の確保、対応する人員の確保等）相談会機能を拡充していきたい。
元気な高齢者への取り組み～家にこもらないように家から外へ引っ張り出す取り組み
数年前から始めたオープンスペース『悠々』というイベント型「居場所」作りをもっと広げて、交流型居場所にしたい
NPO化
各地域包括支援センターと協力して、勉強会、セミナー等の開催を増やしていきたい。当面、エンディングノートの活用の仕方、遺言書の書き方等が計画されている。
活動拡大のための養成講座を実施しているが、定期的な実施が必要。
子育て世代の集まり場所とか、家庭教育学級講座や、PTA や、幼稚園保育園の保護者向けに、命の尊厳を分かり易く感じる映画を観て頂くことで、虐待や自殺等を予防することに貢献したい。どのようにしたら、上映会を実施できるか、教育委員会へ相談に行きたい。
料理教室主体の活動規模は20人を維持することが目標。そのための求心力強化として「食べに行く隊」など別な活動が必要な状況にある
子育て世代の集まり場所とか、家庭教育学級講座や、PTA や、幼稚園保育園の保護者向けに、笑いヨガの技術をお伝えしたら、虐待防止、楽しい子育てに貢献できると考えています。
子育て中の母親が社会や地域とつながりやすくなる環境、仕組みを構築していく
セミナー開催回数を増やす様検討している。
セミナー内容を「遺言・相続」に「終活・成年後見」も加える方向で検討したい。
個人的には親亡き後の障がいを負った方の支援
今年度は維持、事業を担保していくことが過大なので講師業としての活動を図る
シルバー人材への有料職業紹介事業など。
常盤平団地等の独り身の高齢者に対する見回り活動をボランティア活動でなく行っていけるようにしていきたい。
音楽を媒体とした障害者との交流
自主企画によるイベントを開催
地元のお店など、多言語(英語、中国語)での紹介文作り等、広報活動の手伝い
松戸市、他団体との連携を通して、松戸市のインバウンド増加に寄与する

《地域団体》

学校、地域との連携をより深め、登下校だけではなく地域の安全にも貢献していく また、自転車につけるパトロールの札を、多くの人が付けたくなるデザインにリニューアルすることも検討している。
県支部からの要望で松戸市も「高齢者生活支援活動」に取り組まなければならないこと 高齢化が進む中、様々な違いはあるが現段階で具体化できない。
国分川の桜木育活動
全国組織のため、パラリンピック 2020 に何かの形で参加予定。(オープン協議で多くの方に参加を呼びかけ、国際交流をする等) 組織委員会と協議して作成した、車椅子レクダンス五輪音頭を全国に広める。 (現在 You Tube で配信中)
見守り活動をするにあたってのメンバー自身への知識・情報を得る機会(研修等)を増やしたい 広報委員会を立ち上げた。まずは、周知や広報を行っていく。出張勉強会や回数を増やしていく 地域貢献し、より知名度を上げて人員を増やしていきたい。
新しく「松戸市の精神保健を考える市民の会」のようなものを作れないかと考えています。 心を病む人たちは増え続けており、心の健康は、一家族だけで考える問題ではありません。関心を持つ市民の方々と共に考え、行動できればと思っています。
団体名の変更。若い会員を増す
健康フェスタとの共同開催(第 15 回)
現時点では特に無し
子ども、高齢者の居場所づくり—こども食堂 * 委員の識見の資質の向上。
現状維持で細々と事業運営を続けます。先駆的 NPO や民間の個人ボランティア活動をされている方、経験者に声掛けをして事業展開していくか。検討していきたいと考えています。何らかの形で参加を促してまいります。
「は〜とふる相談窓口」の開設、予算化してもしもし電話相談室を開通して、委員が常設対応できる様にしたい

《町会・自治会》

地域教室(子供向けの勉強会、英語、ヨガ、絵画、習字など)
高齢者の見廻り
拓野公園にあずまやの設置(去年は防災井戸の設置)
町内会でのコミュニケーションを活性化する(イベント等を企画する)
高齢者に対するコミュニケーションの充実
子どもたちが増えているので高齢者と子どもたちが一緒に楽しめるイベントを考える
まだ4月に始めたばかり。この活動の定着を目指す
防災リーダーを育成する。防災研修実施を次年度に予定している
相談者との交流の拡大

3回のみで開催なので特になし。現状維持で精一杯。
自主防災組織の再編に取り組む必要があり、現在町会で調整している
子育てサロンと子ども食堂を一緒にやりたい
「花の会」のボランティア活動を次の世代に継承させていくこと
できることはできる範囲で直接、間接的に取り組み支援したい
健康長寿対策。運動、食事、コミュニケーション
警察とタイアップした合同パトロールを計画中
自治会内の美化
福祉に関すること以外にでも 様々なイベントをおこなっているが、継続が基本で新規は今のところ考えていない
防災訓練等の実施
子どもに対して何か事業を立ち上げたい
生活環境の改善、安全性の向上の観点から幅員の狭い道路における電柱と側溝の位置の変更を進めて行く予定
災害時の共助の取り組みをどうするのか検討中。高齢化の進行により、対策図が描けない
恐らく何処の町会自治会でもその役員、ボランティアの高齢化は大きな問題となっていると思う 当自治会も同様だが、その中、当自治会では、市が委託する各町会、自治会の「地域防災リーダー」に高校生を委嘱することはできた。恐らく他ではあまりないと思う。 学校機関等でそのような人材育成の啓発があるなら、他のことも含め多くの人材確保に 花壇土壌改良等を積極的に実施し、さらに美しい花壇づくりにより環境美化を進める
役員の高齢化と人手不足で現状維持するだけで新たなことに取り組む余裕はない
現在やっていることを強力に進めたい
交流拠点の確保
住民の居場所の把握（独居、障害者、年寄りの二人暮らし昼間独居者）
学校にももう一步踏み込んでみる
大変忙しく、新たな取り組みは無理
会館の建て替え（古いため、使いづらく、利用者がほとんどいないので利用しやすいように変える予定）
現状の内容で十分
60周年事業（団地入居）
にぎわいある町づくり
子ども会主体の行事。高齢者主体の行事
毎年考えている
高齢者の声かけ、見守り活動の組織化
子ども会の役員が減少し存続が懸念される。子ども達の環境が変化し行事や会への入会に対して親の援助が得られない。対応が難しい

作品の内容を小冊子にまとめ地域の皆さんに紹介したい
松戸市の通い場に大きな関心がある。自治活動の拡大、分散、役員のなり手不足を考えれば大きな魅力がある
休会中の子ども会の再度の立ち上げ 大清水湧水地への松戸市、柏市からの環境改善にむけた投資
会合に出てこられない高齢者への働きかけをしていきたい
福祉活動
子育てサロンを現在準備中であり栗ヶ沢公園内の砂場を公園緑地課へお願いしている。 子育て支援、介護のお手伝い、ちょっとだけのお手伝い（高齢者に対して生活上の問題解決）
高齢者対策の充実。子ども会の充実
新松戸は子ども減る一方なので子育て世帯が増えるような取り組みがあるとよい。 外国の子供は増えている？
できることをやって美しく解散する方法の検討。時代や現状に合った活動の検討
上部団体である管理組合法人理事会は2年毎に改選となるので本活動を組合法人の活動として内規等で整備する。
認知症になっても、住んでいる街で安心して暮らせるような取り組みをしてほしい
月に3回のサロンから常設サロンを目指している。外部団体との交流に力を入れていきたい
高齢化対策
対象年齢を75歳から80歳に引き上げる？
高齢者の見守りの充実
地震、台風等の自然災害への対応として一人世帯、障害者等の安否確認の方法の構築
自治会への入会拡大（特に集合住宅）
リタイア世代（特に男性）を地域ボランティア活動に取り込む
高齢者の悩み相談
地域と学校とPTAの協力の場を提案
ない。次の会長のために負担を軽くしたい

20 次期地域福祉計画に反映すべき事項・・・以下、原文のままの掲載となります。

《複合サービス》

インターネットの広報拡大及び利用駐車場の確保

《福祉関係機関》

他の会の方とも共に楽しみ当会の会員達のように動ける様になった、手が上がるようになった、嬉しい、楽しいという声を聴いて、会合ができる場所をお借りしたいと思っております。太鼓は重いので高

<p>齢者は年々背中も曲がり力も細くなりますので、ボランティアの方が共に参加し楽しんでいただけたら嬉しいとも思います。</p>
<p>三世代家族への支援</p>
<p>保育園の役割や存在意義を松戸市として市民に伝えてほしい。 無償化となると、「税金で儲けているんだろう！」といった誤った認識をもつ住民も多くなる(より増えることが懸念されます)ので、松戸市としての福祉行政の市民理解を検討してほしい。</p>
<p>「松戸市ひきこもり支援センター」の設置 「松戸市子ども・若者支援センター」の設置 児童虐待・高齢者虐待・障害者虐待・DV・いじめの通報受理・相談受付窓口の一本化(市民に分かりやすく、市民が相談しやすい形)</p>
<p>たくさんのボランティア募集情報があるのに、住民がその情報にアクセスする方法や窓口が一元化されていない。ボランティアに参加することの負担感や不安があるのでなかなか新規の担い手が増えないがその相談先はない。専任のコーディネーターが必要でここにはお金を使うべきだと思う。</p>
<p>各町会の中で介護予防に対する取り組みが始まると良いと思う。</p>
<p>従事者の発掘と養成。</p>
<p>松戸市はそれぞれの地域が、町会や自治会の方たちの力でとても発展しているのではと感じています。ただその中の担い手によっては、高齢化であったり、若い人がなかなか地域に根付かなかったりと、課題はあるように思えます。 地域という場が、生活する中で一番身近な場所であることから、どうやって共生社会が各地域でできるかを考えていきたいと思えます。 そのために、これまでの町会や自治会のあり方、子ども会の見直しも含め、地域の組織づくりのようなものができる仕組みが反映できるといいと思えます。</p>
<p>地域に集会所を確保することに取り組んでもらえるとありがたい。</p>
<p>地域住民が気軽に通える、参加できる活動を企画運営することで顔の見える関係を広げ、健康維持向上だけでなく、交流の場としても場所や人材を提供し、地域活性化を図る。</p>
<p>道路整備や施設の建設といったハード面だけでなく、啓発活動や市民が暮らしやすいシステムの構築といったソフト面も充実させて欲しい</p>

《市民活動登録団体》

<p>森と市民をつなぐ具体的な取り組みを計画願いたい。</p>
<p>この運動に賛同される福祉関係団体との連携強化</p>
<p>①健康維持を通じた仲間づくり・居場所づくり～「熟年男子健康ストレッチの集い」(松戸市 2 か所で毎月 4 回実施)「わくわくストレッチクラブ」(松戸市との協働事業でスタート、松戸市 16 か所で毎月 4 回実施)</p>
<p>② 地域福祉力向上への取り組み～福祉事業所第三者評価・外部評価。社会的養護関係施設の第三者評価</p>

- ③ 認知症予防への取り組みを通じた仲間づくり・居場所づくり～「認知症予防の会」による年1回の認知症予防セミナーの実施(松戸市市民会館)、月1回の「認知症予防の会」(松戸市市民会館)の開催
- ④ 障害者、高齢者の住まいのお困りごと解決～「住まいのミニミニお助け隊」(年間400件)
- ⑤ 熟年男子の食生活の改善を通じた仲間づくり・居場所づくり「熟年男子の料理教室」(まつど市民活動サポートセンター、馬橋市民センター、小金原市民センター)
- ⑥ 趣味を通じた仲間づくり・居場所づくり～「ウクレレを楽しむ会」「発声を楽しむ会」「リコーダーを楽しむ会」「ハーモニカを楽しむ会」「フランス語で話そう」「中高年の英語サークル」「絵手紙を楽しむ会」「書を楽しむ会」「和の小物 布遊びの集い」「健康麻雀倶楽部」
- ⑦ シニアと子供の交流を通じた仲間づくり・居場所づくり～「宿題寺子屋」(NPO 法人松戸子育てさぽーととハーモニーとの協働事業)
- ⑧ シニアのおしゃべりを通じた仲間づくり・居場所づくり～「ミントの会」(NPO 法人こどもっとまつどとの協働事業)

第3次計画などをwebサイトで見ると(詳細に見たわけではないが)いろいろと分析されているが、ユニークな実施プランは少ない。

とって、残念ながら、それに代わる私自身の提案力は持ち合わせていません。

2025年問題で認識されるように、松戸市も構造的な高齢者問題を抱えながら、どの様に地域福祉計画を進めていくか？皆さんで検討ください。

町会活動が段々難しくなってきた

※高齢化や共働き、就労年齢UPなどで役員不足

※町会加入者(加入率)が低下などで、町会を手助けするサポーター(ボランティア)が必要
地域で活動している団体がその役割を担う体制が必要

同じ活動団体の中で連携して、養成講座の一本化、活動範囲の効率化が図れないものか。

映像を通して、心に感じ入る事の出来る映画を沢山の人が観る事は、頭でわかっている、心で、腹で、自他の尊厳に気付く。そのことが行動につながる、地域福祉に貢献できると考えています。

①社会全体にもっと細かな説明や必要性を打ち出してほしい。例えば町会・自治会加入を呼びかける事を掲示板に貼ったが、町会や自治会、社協等が活動に参加しやすくなるよう、参加を促してほしい。

②病気の予防と同じように高齢者や子供にも先行投資が必要。特に高齢者には介護保険の中に予防的な手段として居場所の運営(設立)等に使えるものがあると思う。

こども食堂の名称に困惑する高齢者が少なくない。船橋市内にシニア食堂と銘打つ活動がある(私企業)福祉政策の一環として公開される食堂の需要は高齢化に伴い増大するので、一層の取り組みをお願いしたい。

集まって笑うことで、体が変わり、心が変わり、行動が変わることを実感できます。

皆で、楽しく、笑って、健康に生きる地域福祉に貢献できると考えています

民間が取り組んでいる事業に対し、広報等バックアップできる仕組みを作ってもらいたい なかなか表に出てこられない人、情報をつかみにくい人に対し、発信型のオンラインサービスに着手してもらいたい
悩みごとを抱えている市民の「なんでも相談室」を市役所に設置して頂きたい。
専門職が仕事をしながら地域福祉に直接関われる仕組みや支援が反映されることを望みます。
私達松戸音楽活動同好会や他の団体も皆一生懸命やっているようであり費用の面で苦勞しているようであり補助金支給等松戸市の支援を望みます
前述の「取り組み内容 3.」に記載の通り、松戸市に住む外国人の生活面(買物、諸手続きなど)の支援にも取り組みたいと考えております。
個別相談活動の実感として、来談者の話をじっくり聴いてくれる場がない様に見受けられる。松戸市には今後、きめの細かい相談活動の実施と、当会のような地道に活動を続け、後見活動に繋げている団体の紹介等を行ない、福祉先進都市松戸を市民と共に作り上げる様な柔軟な発想を望みます。 当会としてはいつでも活動内容や状況をご説明に上がる準備は整っています。「市民の役に立つところ」としての松戸市を存分に発揮されるよう望みます

《地域団体》

ふれあい 22 で開催中の「車椅子レクダンス」講座へ参加者が増えれば地域高齢者や、障害者の方々のレクレーションの機会と、楽しくリハビリにも寄与し、交流の場が確保できる
高齢者の高齢化・独居化が進む中で、特に健康に関する計画を策定していただきたい
第7章1 心のバリアフリーについて ここでは高齢者・身体障害者に対する思いやりに重点が置かれていますが、特に精神障害者に対する差別、偏見は根強いものがあります。マスコミ報道もこれを助長する動きがあります。心病む人たち、それを支えている家族が地域で暮らしていく上での大きな障壁(バリアー)になっています。障害があっても、一人の人間として生きていく権利は保障されるべきです。共生の理念にも反します。積極的な啓発活動を期待します。
第7章3 福祉教育の推進について 社協の取組の中に精神障害も取り入れていただく事を希望します。特に学校の中でのいじめから人間不信に陥ったり、不登校⇒ひきこもりとなり、地域との接点を作れない人たちがいます。また、思春期の情緒不安定から心を病む例も多いです。こどもたち自身の人生に関わる問題です。精神障害についての理解を持てば、自ら適切な対応も可能になるでしょう。難しい取組かもしれませんが、心病むことを経験した人たちから直接話しを聞く機会を持つことはこころの問題の理解を深めると思います。
第4章8 地域包括ケアシステムの構築について ここでは高齢者が対象になっていますが、国の方針で「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」事業が始動しています。老人対応のものとは別立てで、新たなシステムの構築を目指しているとは考え難い。 精神障害者も高齢化しますし、老人の中にも精神医療の対象になる人もいます。包括的ケアシ

テムは年齢を問わず地域に必要な制度です。他の制度との整合性を別にしても、限られた財源と人材不足の現状から、果たして実現可能なのか、思い切ったシステム改革が必要な時期が来ているのではないかと、他人事では無いと思っています。

地域福祉は、ボランティアの参加協力が必要だが、行政や学校関係者だけでできるものではないと考えています。多様な社会資源を巻きこんで、地域で様々な団体が参加し、協働していけるようにしていくべきであると考えます。

特に社会福祉法人は地域福祉の担い手としての位置づけも主要なテーマとしてあるわけで、地域福祉計画においては、松戸市社会福祉協議会にとどまらず、他の社会福祉法人やNPO法人、株式会社など多様な参加を前提として計画を策定していくことが必要ではないかと思えます。

高齢者の引きこもり対策

高齢者、一人暮らし障害者の方に対して気軽に相談、支援できるボランティアを作りたい(社協とは別に)

子どもに関しては、ほぼ同じ目的・内容の事業が、教育委員会と市長部局と乱立している。地域についても、どちらの担当課と話しをするべきか、混乱がある。役所・地域の人的資源をうまく活用するためにも、施策・担当部局の交通整理をすべき時期にきていると思う。

また地域におけるボランティア資源は今後縮小していく可能性が高い(定年の延長・定年後再就職率の伸び・女性の就業率の伸び等)。今後は少ないボランティアを多くの団体が奪い合うようになっていくと思う。ボランティアは無償で働かせる使い勝手のいい人的資源という認識を改め、有償ボランティアも増やし、やりがい搾取にならないようにしてほしい。

* 権力に臆することなく、住民のための計画を ぜひ、お願いします

・地域福祉の充実には財源の破綻とか申しますが、無駄な税金の助成し、一役の団体に集中する権力を与えてしまうと、負の方向にある時はますます助長されていきます。

・隠蔽や搾取が横行しないまちづくり、活動の見返りによる助成とするなら、何ら問題はないのだからオンブズマン制度が必要ではないかと思えます。

・異動に伴う行政の方がどこまでできるのでしょうか。

地区社協のことなので意見を言ったら大変ですから何も言えない

・町会長自治会長に安易に権力を与えずぎなのではと思います。

・心配は、配分された補給物が災害時に均等に配分されるかという点です。

制度的に児童相談所のように松戸市政として、「高齢者相談所」の開設を要望する。現行の様な行政的などころではなく。

認知予防に反映した福祉事業者の取組の紹介と実践講座の企画

《町会・自治会》

町会自治会への負担金は世帯数に応じているため、事業を新しくやるにも限度があり、会員に頼らざるをえないのが現状。地域の新しい試みをバックアップするべく、事業内容に応じて負担金を出す仕組みが必要

ボランティアで活動しているので活動費は0円。何かの形で励ましがあれば、本人たちはより一層の元気をもらえる
気軽に楽しめる集会所を計画して欲しい
社会福祉協議会の広報誌はあまり魅力がない。また赤十字活動との関連も不明な点あり。いきいきセンターの活動のように、地域へ出て、人々と交流するサービスを充実させるべき
町会役員が自ら実行しないのでできる組織作りの提案
行政と地域のコミュニケーションを密にする
きめ細かなサービスを追求するため、色々なセクションが増え、担当、人員不足が発生すると考えています。そのシワよせが各団体、町会に振り分けられ、ボランティア活動が多すぎる。もうこれ以上増やさないでほしい
地域の絆づくりはとても大切。最近では災害も多いので、共助がとても大切な役割を果たすと思う
町会長・民生委員、健康推進員等、各種委員のなり手が不足している。従って、地域で助け合う取組が充分ではない。地域活動を進めるために、人材、活動の中心となるリーダーを育てることが重要。ボランティア活動を学んだり体験することも大切だと思う。
学校と地域の連携を密にする。東部地区は良好
体の弱った人が外に出られ、休憩施設（ベンチ）が点々とある散歩コースなどの設置 ボランティアで極めて限られた費用でできることは限られており大きな成果は得難く、取組みの理解を得難いというのが実情。市にも色々な方法で支援してほしい
買い物難民が多い地域への買い物支援バスの運行
各地域や団体の実体験や活動の広報誌。当地域でもたくさんの行事があり、老人会の方はマンネリで前向きな活動がない。
障害者、病人を運搬できるストレッチャーの類を貸与又は購入補助を検討できないのか 第3次福祉計画の冊子本の末尾に第二次計画の進捗状況結果があるがAランクが多いのは良いことであるが、甘い採点では更なる行政の進展はなくなる。進取の気性をもって施策を願う
補助を途中でとめないでほしい
地域に対しての研修なども多くあるが、町会担当者にも数字の参加要望をだし計画等の反映などに活かせたらと思う
各種取組内容の吟味と規模について再検討が必要
松戸市は福祉が充実している
社協からもPRしてもらっている。
子ども達が自由に遊べる公園等の整備。 図書館の充実（放課後、勉強できる場所と設備）

市民センターでの講演会等は必要ないがセンターに行けない人のために「通いの場」があり地域密着した助け合いの場になっている。通いの場の立ち上げが必要
活動の主旨並びにテーマ選定等で良いアイデアがありましたら指導してほしい 主体の講師等の案内について
高齢者の一人住まいの方を見守る様にしていく
各町会での具体的事例の発表、各町会、地区で、盆踊り大会、イベントが各種あると思料 そのイベントに連絡して各種活動を活発化していく方向で考えて欲しい（福祉と個別に考えるのではなく）
子ども達を今後どのように育てていったら良いか、町会自治会任せではなく行政でも検討してほしい
高齢者の見守り活動も防犯防災福祉と言う個別の活動から各自治会に指示がするのではなく一体として（連名で）指示すべき案件だと考えている 地域福祉課だけで指示されると矛盾が出て現場は何にも出来ない。これが代表例。（防犯のことだけ考えても福祉はできない）
当町会では老人会としてカラオケを月1回、旅行を年2回行うことで楽しく交流している
この取り組みが他町会にも波及。拡大することを期待する
町会活動の中心となる。人材不足を補うための人材育成
見守りに関する物資購入資金援助
当町会は弱者支援ということで様々なイベントに歩行困難な方の為に車椅子2台購入して歩こう会やバス旅行等必要な方に貸し出し実施しようとしている。
介護、要支援のシステム強化
都市化に伴う町会・自治会の組織変容、現状と未来など、社会学的考察の参考文献として次のものが考えられる。松本康編『都市社会学・入門』2014年有斐閣アルマの69～73頁
子どもの環境の格差。外国人、一人親、環境悪の把握 母親が働くことで生じる子どもへの影響 孤立する親子のゆがみを生じさせる環境
地域とはどの範囲になるのか。私たちの活動は、1つのマンション（808世帯）の中での活動。地域一つ一つがそれぞれで活動できるモデルを具体的に示してほしい
現在は、月に1回とか年に1回などのイベント型取組が多いのですが、これからは、年代を問わず、いつでも誰でも気軽に過ごせる場所が小学校区ぐらいの狭い地域に必要ではないでしょうか。 私達もイベント型サロンではなく常設のサロンとして誰でも赤ちゃんからお年寄りまでが集える場所を作りたいと考えています。
松戸まちづくり会議の活動を通じて世代と地域を超えた交流と地域づくり、活性化につなげていきたい

2 1 地域福祉についての意見(自由記載)(抜粋)・・・以下、原文のままの掲載となります。

《複合サービス》

たすけあいの活動を持続する上で高齢化に伴い年々応援者(活動者)の人手不足が問題化されています。一昔前のように隣近所で助け合うことすら間々ならないことも多々あります。そうした問題を解消するためにも、同じ地域の住民同士のたすけあい活動が必要だと思います。そうした参加者の学びの場、協調しあえる場を設けるなどできればと思います。
高齢の方のコミュニティーする場が今後ますます必要ではないでしょうか。
郵便局として、地元のお役に立てることがあれば参加しています。 アンケートが空欄なのは郵便局で主催ではなく、参加させていただいているだけなので。日々の取り組みです。
ちびっこフェスティバルに関して、郵便局が主体となっているわけではないので、詳しくは分からないのが現状
郵便局としては、ほかにも5月に行われたわんぱく相撲やゲートボール大会、東松戸まつり等にも協力している

《福祉関係機関》

他の会では、町会からの補助食事の度に弁当を出している所もあると聞いています。又、年寄り達なので病院に行くこともありますので、月ぎめに食事をする事もできません。市の補助金と会員の参加費の200円でやりくりしていきますので、園の場所代も太鼓の衣装代も0円です。会員が元気に笑顔で楽しみに参加していることにうれしく感じております。どこかで寄付でもあれば喜んでいただきます。そして太鼓も衣装なども会として用意できたらなとも思います。
自家用車のない家庭にタクシーチケットの配布
開放保育に初参加のお母さんのほとんどが、保育園で開放保育をやっていることを知らないという声が多いので、方法発信は必要。子育てに悩んでいる人の多く集いに来る人や出て来ない(参加しない)方たちのサポートが重要だと感じる。
松戸市は県内でも比較的人口規模が大きい中、地域福祉の取り組みとしては官民協同で頑張っている方だと思います。 今後、「地域共生社会の実現」を模索し、実現に向けた取り組みを行っていく上で、既存の活動やシステムやネットワークなど、すでに松戸市が持っている福祉的社会資源から得られるヒントはたくさんあると思っています。
取組が縦割りでもっと住民主体に考えて各課が連動して強みを出し合い目標が達成できる施策にととのえていただければと思います。
色々な地域の活動を参考にし、良いものを取り入れてはどうか。 社協の活動があまり知られていないように感じるので、もっと周知して欲しい。
地域福祉はとてもの大きなくくりにはなってきますが、どこまでのくくりで地域を考えるかもこれからの課題ではないでしょうか。

一人ひとりが少しでもそれぞれの地域の中で、居心地よく住み暮らすことができる松戸市になれることを心から祈っています。そのための地域福祉計画を一緒に考えていきたいと思ひます。
他県の好事例がありましたら、ご紹介ください
30年度は町会長・民生委員と協力しながら3回開催の計画であったが、1月15日開催予定はインフルエンザが流行したため中止となり、30年度の「河原塚ほっとさろん」は2回でありました。
住宅街だけに目を向けるのではなく、農村部にも目を向けて欲しい。ここは調整地域である。
市内全域で行われている活動内容を一括化してほしい、高齢者事業でも様々な活動をしている法人があり、また他分野での団体も同様な活動をしている。情報の共有がはかれていないのが現状かと思ひます。
地域密着型の難しさ(利用者・入居者の個人情報保護など) イベント開催における財政の確保、人員の確保 上記の点以外にも、難しさを感じる事があります、なにより地域の方が何を望むのかを、知り、少しでも地域の福祉に役立てればとは思ひますが、その「何を望むのか」を知るのがとても難しい。

《市民活動登録団体》

森と市民をつなぐ具体的な取り組みを計画願ひたい。
この運動に賛同される福祉関係団体との連携強化
2025年問題で認識されるように、松戸市も構造的な高齢者問題を抱えながら、どの様に地域福祉計画を進めていくか？皆さんで検討ください。
①社会全体にもっと細かな説明や必要性を打ち出してほしい。例えば町会・自治会加入を呼びかける事を掲示板に貼ったが、町会や自治会、社協等が活動に参加しやすくなるよう、参加を促してほしい。
②病気の予防と同じように高齢者や子供にも先行投資が必要。特に高齢者には介護保険の中に予防的な手段として居場所の運営(設立)等に使えるものがあると思ひます。
こども食堂の名称に困惑する高齢者が少なくない。船橋市内にシニア食堂と銘打つ活動がある (私企業)福祉政策の一環として公開される食堂の需要は高齢化に伴い増大するので、一層の取り組みを願ひしたい。
集まって笑うことで、体が変わり、心が変わり、行動が変わることを実感できます。皆で、楽しく、笑って、健康に生きる地域福祉に貢献できると考えています
私達松戸音楽活動同好会や他の団体も皆一生懸命やっているようであり費用の面で苦労しているようであり補助金支給等松戸市の支援を望みます
前述の「取り組み内容 3.」に記載の通り、松戸市に住む外国人の生活面(買物、諸手続きなど)の支援にも取り組みたいと考えております。
映像を通して、心に感じ入る事の出来る映画を沢山の人が観る事は、頭でわかっていても、心で、腹で、自他の尊厳に気付く。そのことが行動につながるのだから、地域福祉に貢献できると考えています。

《地域団体》

<p>ボランティアは本来自分主導でおこなうものですが、行政から声掛けをしてほしい。気持ちがある人はいくらでもいると思うが、中々個人だけでは動けないのできっかけを作ってほしい。</p>
<p>奉仕活動のアピール、チラシの配布等にお力を貸してほしい。周知方法として町会、自治会の回覧や掲示板の利用は？</p>
<p>前は市のバスで市内見学ができたのに。高齢化で歩いての外出機会がなくなり、参加者の一番楽しみでしたので残念です。</p>
<p>松戸市内で拡大写本を必要としているところの紹介を願いたい</p>
<p>心病む人たちは増え続けています。精神疾患の患者数は、糖尿病の患者数を遥かに超え、5大国民病のトップを占めています。現員は究明されておらず有効な治療法も無いことから、患者の数は増えるばかりです。</p> <p>主に対人関係に問題を抱えており、ふれあいが苦手で多くの患者はひきこもって支援の手を差し伸べても拒否される事が多いのです。(セルフネグレクト)精神障害の特徴はひと言で「孤立化」と言えます。「孤立化」を強めるのが。社会の偏見・差別です。</p> <p>心の病気は、身体の病気と同じほど重要な問題です。誰にでも起こり得ます。(身体の病気や障がい、難病等で苦しんでいる人など)。また、年代を通じて起こります。(学校でいじめにあって自殺する人など)</p> <p>精神障害者は何をするのか分らない、怖い人と思っている人が多いと思いますが、実は精神障害者自身が他人を怖い存在だと思い込んでいるのです。もともとは優しい人たちです。厳しい競争社会の中で(学校も同じで)、人を押しのけてでも生きていかなければならないシステムに適応できなくなり脱落した人たちです。むしろ多数派といえます。</p> <p>このような人たちが暮らしている地域です。この視点での福祉計画が立案されることを心から願っています。</p>
<p>古ヶ崎市民センターはエレベーターがないため、高齢者が多いので早くつけてほしい</p>
<p>行政ばかりを頼るのではなく、町会単位で皆協力し合えればよいのだが、個々人もう少し関心を持って自分たちが何を出来るのか、出来ない(してもらう)もの、ことは何なのか、知ってもらいたい。</p> <p>地域福祉は皆の支えあいなのだから。</p>
<p>「地域福祉：地域住民の幸せ度を底上げするための様々な取り組みのこと」と考えられ、自分の力で幸せな状態になることが難しい方々に対して、地域社会としてその支援が出来るような仕組みを作っていく必要があります。地域福祉計画は、その大きな指標となるものであり、計画策定時においては、幸せな状態の地域のイメージを共有することが大切であると考えます。</p>
<p>地域の施策は、1年後を想定するのか、5年後10年後、次の世代を想定するのかによって、かなり違ったものになってくる。全市ならびに各施策、各地域とも、どの時点を念頭に議論するのか、常に確認しながら進める必要があると思う。</p>
<p>* 同じ土俵にないと進むべき道はありません。</p>

<p>* 支え合う気持ちがなければ、安心して暮らせるまちづくりはできない。 * でも、あきらめています</p>
<p>策定委員などは町会・自治会長など（地区長）同じ方が就任されています。 弊職が多いと思います。イコール権力は、優秀な人材を排除しているように見えます。</p>
<p>地域で安心して暮らせるための事業展開かと思いますが、事務所は3人の事務員がいるのに、ドアに施錠し町会長や自治会長のサロンになって居て、住民がコピーに行っても外で待たせられる。開かれた地域福祉ではないが、文句を言うと怒鳴られるので何もいえないと住民が言っていた。</p> <p>市社協も地域の事は市の責任ではないので答えがでない、地区に行けという。そのためにみな県社協などに相談するしかなく、八年くらいこの状況が続いている。</p> <p>反映なんて。しっぺ返しが怖くて、何も地区社協に改善や注意など与えなくて結構です。おこがましくて、何もありません。</p>
<p>地域住民が気軽に寄れる憩いの場等の提供と開設を要望する声が聴かれる機会が多く感じられる。しかしながら「場」があっても、運営協力する人材が不足していると思われる。人材発掘と人材育成が急務と思います。</p>
<p>松戸市の福祉政策は充実していると思います。行政サービスが行き届くほど、市民の依存度も高くなるのではないのでしょうか。</p> <p>市民のもっとも近くにある組織、町会・自治会を機能する組織に変えるよう行政からの働きかけがあっても良いと思います。</p> <p>先進的な組織になっている町会自治会をモデルにして同様の形態になるよう催す事も必要かもしれません。町会内で住民同士の助け合いのサイクルを作ります。</p>
<p>災害発生時の誘導について（特に高齢者を対象とする）のマニュアル等の配布や、方法についての周知をお願いしたい</p>

《町会・自治会》

<p>地域福祉活動が大事なことであるので、日頃の広報は回覧・掲示・ネット等で不断に呼びかけることが不可欠</p>
<p>地方自治会の考え方が松戸市⇔市川市というように市対市であるが、 今後は町会⇔市川市～自治会というように町会同士の交流を持ち、遠方の子ども達をホームステイなどに受け入れるなどして、住民レベルで交流がしやすい仕組みを増やしてもらいたい</p>
<p>高齢化の方が年々増え福祉に携わる方の負担も増え今後の活動が大変不安</p>
<p>他自治会、他町会で拡大したらよいと思う。取組の情報開示</p>
<p>町会設立 50 年、世代交代期を迎え、継承が難しい。新、旧、住民の意識に差がある</p>
<p>高齢化に伴う空き家問題 （住民の死亡によるもの）</p>

首都圏での住みたい街の中で松戸は79位と落ち込んでいる。他地域から転入してきた人たちに「集会所はないのか？」と言われる。空地、空き家はあるので、確保してほしい
定年退職者は増加しても地域福祉には問題トラブルの発生になっている部分もある サービス向上を考えるなら職員がやれる範囲で考えてほしい。 市職員OBをうまく使ってほしい
体操教室のような事業に対して補助制度等何か援助を受けられるような制度はないですか。
災害のことに不安がある。民生委員や町会役員だけの力では及ばない。地域の絆づくりをして一人一人が防災意識を高めていけるとよいと思う
町内会の掲示板が壊れているので設置の許可を受ける必要があるが、 公園内や公園と道路の境目については行政から許可が下りない。もう少し柔軟な対応をお願いしたい
町会に対する依頼事項が多く、負担が大きい。最近では災害も多く、孤独死などの問題もあることから命に直結する問題に対してまずは取り組むことが大事だと思う
交流の場があるが足に自信がなく会場に参加してもらおう方策を考えてほしい。引きこもり予備軍が本当のひきこもりにならないように。
災害時要支援活動は命がけで、役員だけでなく近くの住民が一番の手助けになると思うが、まずは安否確認をお願いしたい
自治会の活動ですら人が集まらない
自然災害が多くなっていくであろう時代の今後のために行政として、高齢者に対する対策を具体的に支援者、リーダー育成を急いでほしい
先日、長期健康長寿研修会を開いているNPOの団体が東京より来てくれて、安心電話に加入している12名と面接話し合いがあった。松戸の福祉課でも個人面接があるとよい
スクールガードの必要性から任意でやる ボランティアではなく当局による地位の位置づけがあればよい
ひきこもり家庭の把握、認知症高齢者の把握
町会のような場合、イベントごとに金銭的支援があれば、もう少し内容を充実させられると思う（町会費の値上げはハードルが高く難しい）
地区ごとにある社協の役割を町会等に取組を一体化して地域の福祉に対する拠点としていくと行事に対しても参加が増えるのではないかと社協の評議員会ももう少し回数を増やせたら良い。
空き家を利用して高齢者の居場所づくりをしてほしい
子ども食堂等へも協力参加していくつもり
防災無線が聞きづらいとの声をよく聞く 学区、地区単位で防災福祉を考えているが、震災が起きた時などに高齢者が市民センターや小中学校まで移動できるかを考えると難しい方が出てくると思うので町内会の会館を新しく整備し対応できるようにと考えている

<p>地域福祉活動の開催場所が松戸駅周辺が多いので近く小金市民センターでの開催を希望 高齢者がいつまでも元気ですごせるように見守っていききたい</p>
<p>高齢者の福祉関連行事は社協や高支連を通して自治会に通知される典型的な例は ふれあい会食会、文字通り社協を通過するだけで、実施は各自治会。これでは、社協が 主催する意味があるのか。高支連の見守りについても地域福祉課、高齢者支援課と意見 調整してから指示される様望みます</p>
<p>十分な予算の検討してほしい</p>
<p>おしゃべりサロンは民生委員さん、高齢者相談協力員さんと町会三者により今のところ 順調に進んでいる。参加者が友人に声掛けをして参加者の増加をねらっている。子育て サロンは戸建て住宅が増えており、若いお母さん達の子育ての手助けをしていこうとし ている。</p>
<p>見える場所にいない子どもへの対応が充実することを願う。助成金、補助金が適切に機 能していると良いと思う。楽しいことはボランティアでもよいと思うが、命や暮らしに 関わることは従事者への報酬、仕事であるべきと思う</p>
<p>高齢者、子ども、障害者、外国人などなどバラバラな取り組みではなくそれぞれが一緒 に活動できる取り組みや交流が出来る場所が小学校学区ぐらいの単位でいるといい 市役所も活動団体も一つにまとまるようになると暮らしやすい松戸になるのでは。</p>
<p>災害時に役立つようにマニュアルを示してほしい</p>
<p>何に対しても補助金名目で町会等に丸投げ感が強い。企画だけでフォローが少ない お金はいらないので最後まで責任を持って取り組んで欲しい</p>

第4章 アンケート調査票

地域団体の取り組みの把握に関するアンケート

団体・事業者名： _____

記入者（役職）： _____ 連絡先： _____

実施主体：松戸市役所 健康福祉部 地域福祉課（TEL：047-366-3019）

地域におけるボランティア活動や福祉活動に取り組んでいますか	
1. はい	2. いいえ
「1. はい」と回答した場合⇒「取り組み名」から始まる設問にお答え下さい。	
「2. いいえ」と回答した場合⇒参加できない理由を下記選択肢からお選び下さい。	
1. 機会やきっかけが無い	2. 活動に取り組む人手がない
3. 他の事業者や団体等との関連が弱い	
4. その他（ _____ ）	
※ 「2. いいえ」と回答した場合のみ、以下の設問にもご回答願います。	
ボランティア活動や福祉活動に取り組む必要性についてどのようにお考えか、下記選択肢からお選びください。	
1. 必要性は感じている	2. 必要性を感じていない
3. どちらともいえない	
4. その他（ _____ ）	
ボランティア活動や福祉活動を活性化していく上で、行政に期待する役割などありましたらご記入ください。	

「2. いいえ」と回答した方はアンケート終了です。ご協力ありがとうございました。

下記に取り組み名をご記入下さい。						
また、ボランティア活動の場合には（ _____ ）内に○をつけてください。						
取り組み名	（ _____ ）					
取り組みに該当する項目に○をつけてください。（複数回答可）						
まちづくり	健康・医療	防犯	防災	相談支援	就労支援	人材育成
障害者支援	介護	声かけ・見守り	サロン	子育て支援	世代間交流	文化・芸術
その他（ _____ ）						
取り組みについて、具体的にどのようなことを行うのか、ご記入ください。						
取り組み内容						

取り組みの対象となる方について、該当区分に○をつけてください。(複数回答可)			
対象者	高齢	障害	子ども 女性 その他 ()
取り組みについて、平成30年度の開催数や、利用者数・従事者数・活動開始時期等をご記入下さい。また、活動経費・財源・周知方法の該当箇所に○をつけてください。			
開催数	利用者数	従事者数	活動開始時期
回/年	人	人	
活動している中でのメリットがあれば、ご記入ください。			
活動当初と比較して変化したことがあれば、ご記入下さい。			
活動経費 ※おおよそで構いません			
1万円未満	1万円～5万円	5万円～10万円	10万円～30万円
30万円～50万円	50万円～100万円	100万円～500万円	
500万円～1,000万円	1000万円以上		
財源(収入源)			
会費	自主事業収入	寄付金	民間からの助成金
行政からの助成金	その他 ()		
周知方法			
ホームページ	チラシ	町会・自治会の回覧や掲示板	
ポスター掲示	声かけ	その他 ()	
取り組む中で、問題や課題になっていることに該当区分に○をつけてください。(複数回答可)			
1. 取り組みの周知や情報発信の機会が少ない 2. 利用者が減少している 3. 従事者が不足している 4. 従事者の高齢化が進んでいる 5. 新しい事業展開が行えずにマンネリ化している 6. 他の事業者等との連携が弱い 7. 財政面での不安がある 8. 地域での理解が不十分である 9. 拠点の確保が困難である 10. その他 ()			
問題や課題について、具体的内容があればご記載下さい。			
(例) 地域に交流を持てる場所がないため、話し合いをする場所の確保が難しい。			

<p>取り組む中で、必要と感じていることに○をつけてください。(複数回答可)</p>
<p>1. 広報活動 2. 組織づくり(従事者の確保等) 3. 他の事業者・団体との連携 4. 財政面での補助 5. 拠点の確保 6. その他()</p>
<p>取り組みの中での様々な問題や課題を解決する上で、行政に対して期待する支援や役割などありましたらご記入願います。</p>
<p>取り組みの今後の方向性について、下記いずれかに○をつけてください。</p>
<p>拡大 維持 縮小 終了 その他()</p>
<p>貴団体において、今後新たに取り組む内容があればご記載下さい。</p>
<p>各種取り組み結果から、次期「松戸市地域福祉計画」に反映すべき事項がありましたらご記入ください。</p>
<p>その他、地域福祉について、ご意見等がございましたらご記載下さい。</p>

以上でアンケートは終了になります。ご協力ありがとうございました。

第3次松戸市地域福祉計画に関連する
地域団体の取り組みの把握結果

発行 松戸市
編集 松戸市健康福祉部地域福祉課
Tel 047-366-3019
Fax 047-366-1392
